

3 区政全般

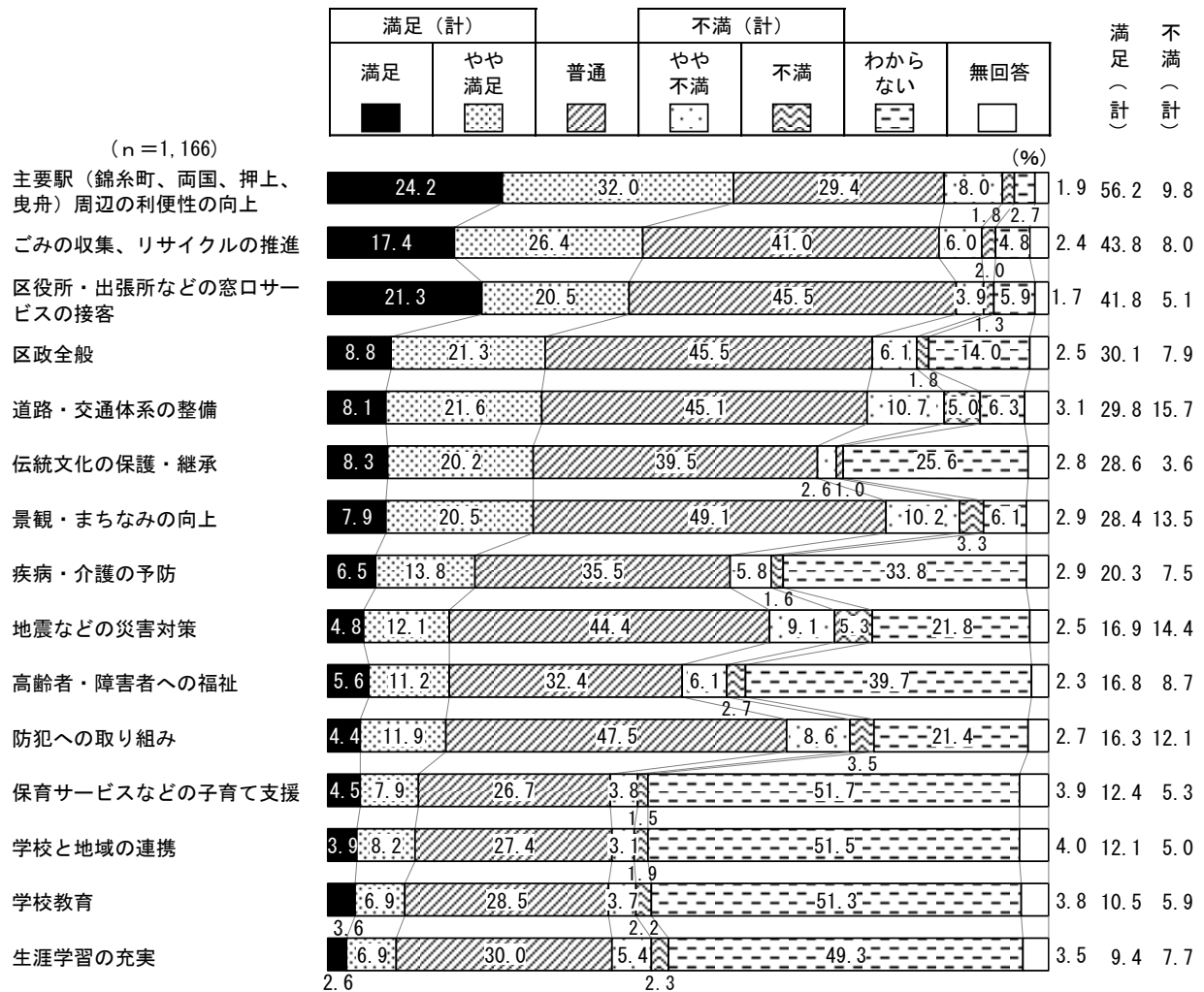
-
- 3-1 区の仕事の満足度と重要度
 - 3-2 力を入れるべき施策
 - 3-3 区の施設の利用頻度と利用しなかった理由
 - 3-4 将来にわたり施設サービスを提供していくための取り組み
-

3-1 区の仕事の満足度と重要度

- 満足度は「主要駅周辺の利便性の向上」、重要度は「地震などの災害対策」が高い

問5 あなたは、次の項目に関わる区の仕事について、満足していますか。項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

図3-1-1 <満足度>



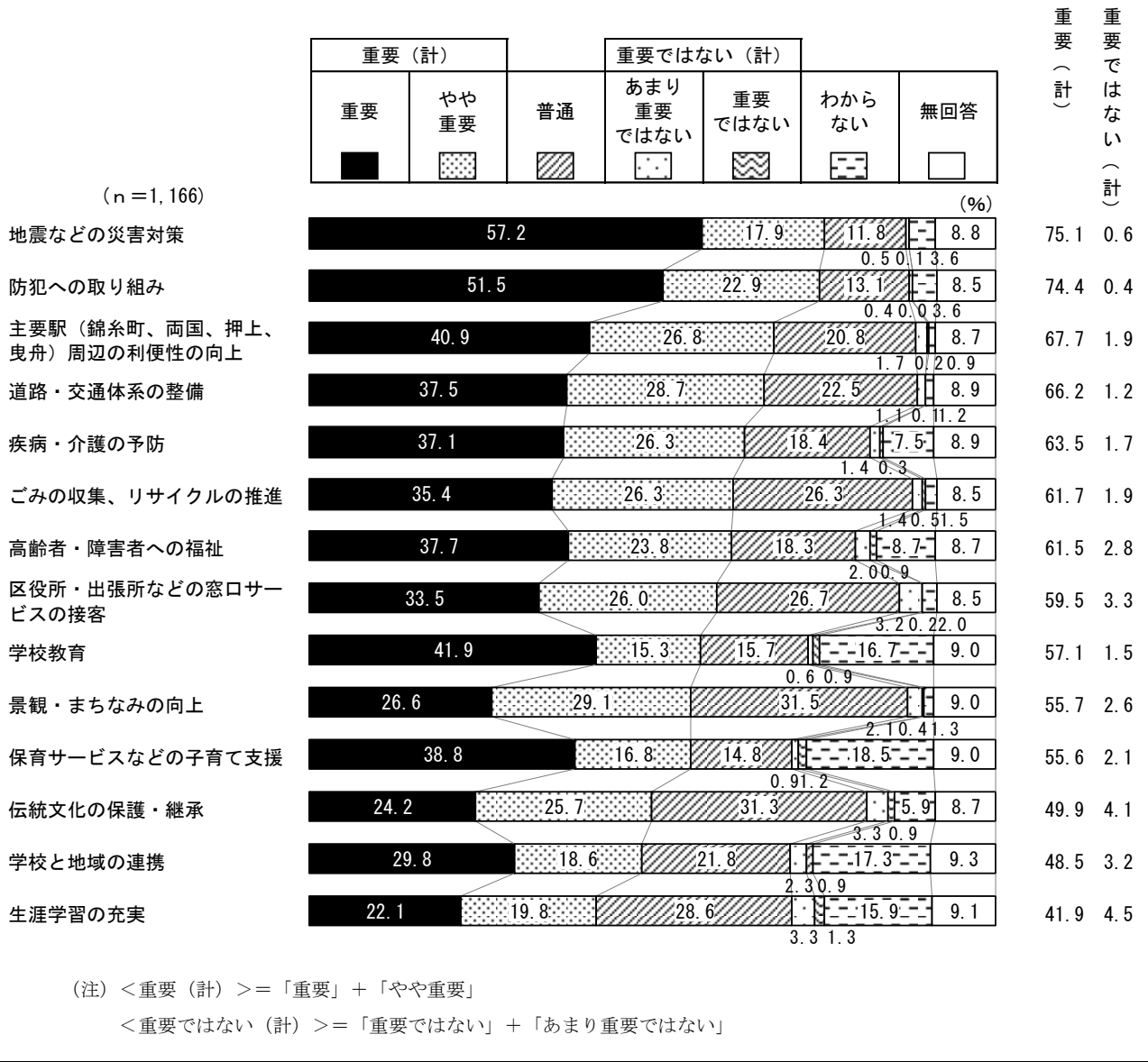
(注) <満足 (計)> = 「満足」 + 「やや満足」
 <不満 (計)> = 「不満」 + 「やや不満」

15項目に及ぶ区の仕事に関して、それぞれの満足度と重要度を5段階で評価してもらった。

満足度として、「満足」と「やや満足」を合わせた<満足 (計)>は、「主要駅周辺の利便性の向上」(56.2%)で5割台半ばと最も高く、次いで「ごみの収集、リサイクルの推進」(43.8%)、「区役所・出張所などの窓口サービスの接客」(41.8%)となっている。一方、「不満」と「やや不満」を合わせた<不満 (計)>は、「道路・交通体系の整備」(15.7%)で1割台半ばと最も高く、次いで「地震などの災害対策」(14.4%)となっている。(図3-1-1)

問5 また、どのくらい重要（大切）だと思いますか。項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

図3-1-2 <重要度>



続いて、重要度として「重要」と「やや重要」を合わせた<重要（計）>は、「地震などの災害対策」（75.1%）で7割台半ばと最も高く、次いで「防犯への取り組み」（74.4%）、「主要駅周辺の利便性の向上」（67.7%）、「道路・交通体系の整備」（66.2%）となっている。（図3-1-2）

この質問では、各項目の比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、各項目の満足度と重要度を算出した。

$$\text{満足度・重要度} = \frac{(\text{「満足 (重要)」の回答者数} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足 (やや重要)」} \times 1 \text{点}) + (\text{「普通」} \times 0 \text{点}) + (\text{「やや不満 (あまり重要ではない)」} \times -1 \text{点}) + (\text{「不満 (重要ではない)」} \times -2 \text{点})}{\text{回答者数} - \text{「わからない」} - \text{無回答}}$$

この算出方法では、満足度・重要度は-2.00点～+2.00点の間に分布し、0.00点が中間点、+2.00点に近いほど満足度・重要度が高く、逆に-2.00点に近いほど満足度・重要度が低いことを示す。

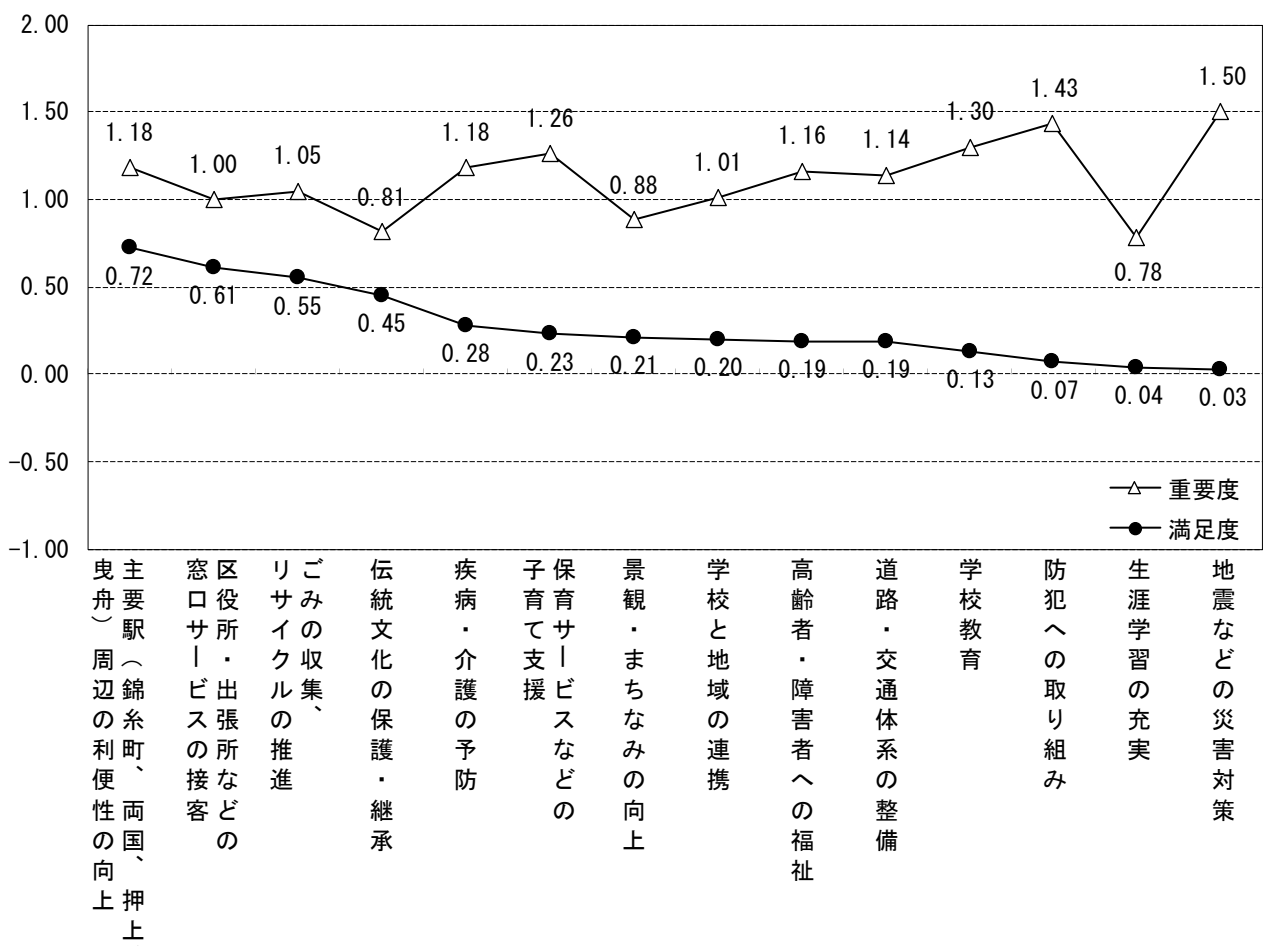
満足度が最も高いのは、「主要駅周辺の利便性の向上」(0.72)で、次いで「区役所・出張所などの窓口サービスの接客」(0.61)、「ごみの収集、リサイクルの推進」(0.55)、「伝統文化の保護・継承」(0.45)となっている。

重要度が最も高いのは、「地震などの災害対策」(1.50)で、次いで「防犯への取り組み」(1.43)、「学校教育」(1.30)、「保育サービスなどの子育て支援」(1.26)となっている。

ここで満足度と重要度の点差の大きい項目は、重要視されているにもかかわらず満足度が低いことを示している。そのような項目を列挙すると、「地震などの災害対策」(1.47ポイント差)、「防犯への取り組み」(1.36ポイント差)、「学校教育」(1.17ポイント差)などとなっている。

(図3-1-3)

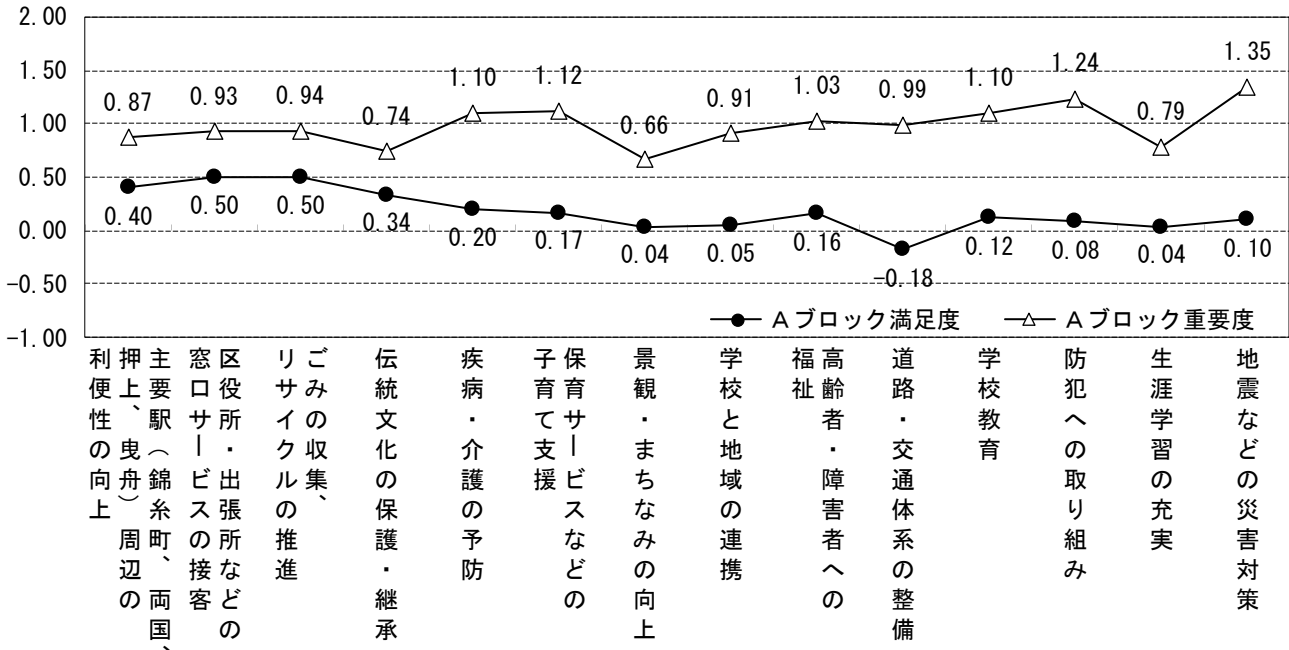
図3-1-3 区の仕事の満足度と重要度



続いて満足度と重要度をブロック別にみていく。

Aブロックでは、区全体と比べると、満足度は「道路・交通体系の整備」、「主要駅周辺の利便性の向上」で低くなっている。重要度は「主要駅周辺の利便性の向上」で低くなっている。満足度と重要度の点差の大きい項目には「地震などの災害対策」(1.25ポイント差)、「道路・交通体系の整備」(1.17ポイント差)などがある。(図3-1-4)

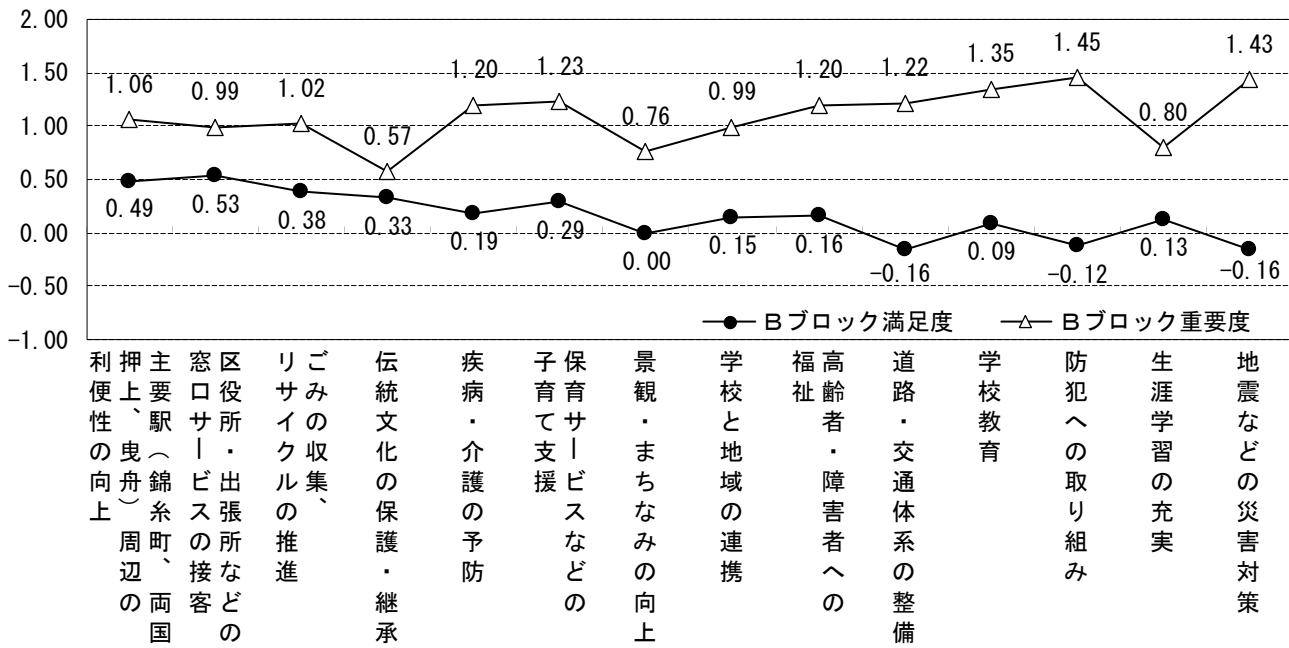
図3-1-4 区の仕事の満足度と重要度 (Aブロック)



Bブロックでは、区全体と比べると、満足度は「道路・交通体系の整備」で低くなっている。重要度は「伝統文化の保護・継承」で低くなっている。満足度と重要度の点差の大きい項目には「地震などの災害対策」(1.59ポイント差)、「防犯への取り組み」(1.57ポイント差)などがある。

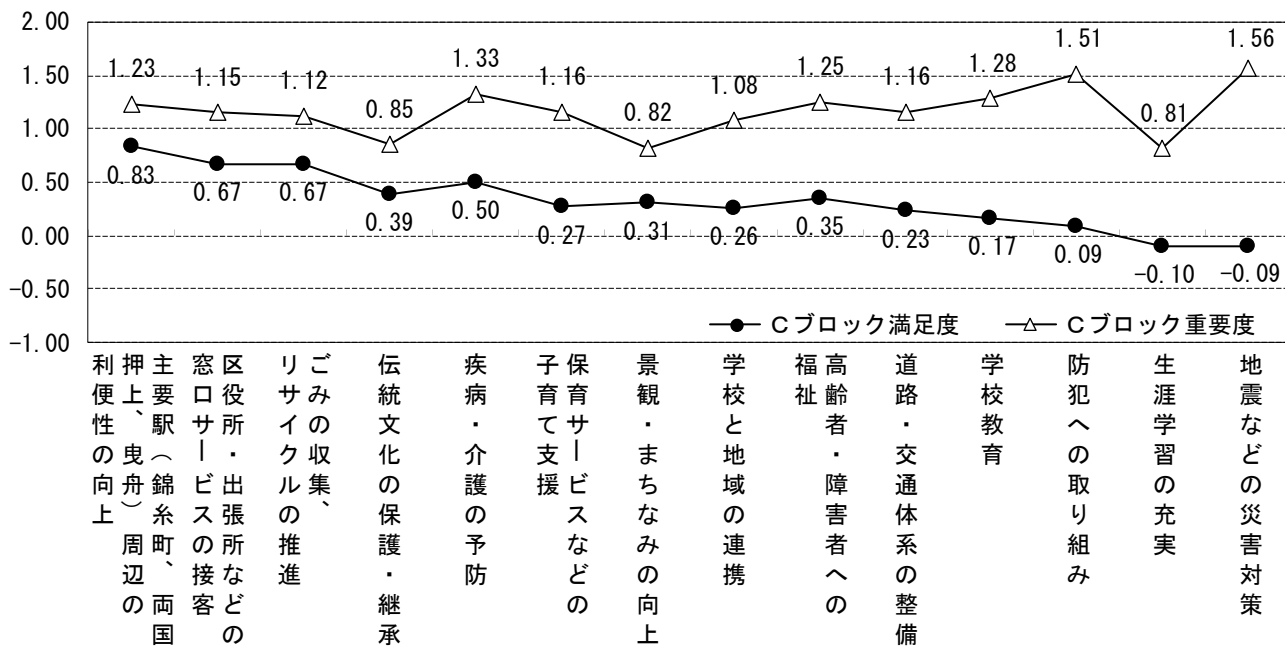
(図3-1-5)

図3-1-5 区の仕事の満足度と重要度 (Bブロック)



Cブロックでは、区全体と比べると、満足度は「疾病・介護の予防」で高くなっている。重要度は「区役所・出張所などの窓口サービスの接客」、「疾病・介護の予防」でやや高くなっている。満足度と重要度の点差の大きい項目には「地震などの災害対策」（1.65ポイント差）、「防犯への取り組み」（1.42ポイント差）などがある。（図3-1-6）

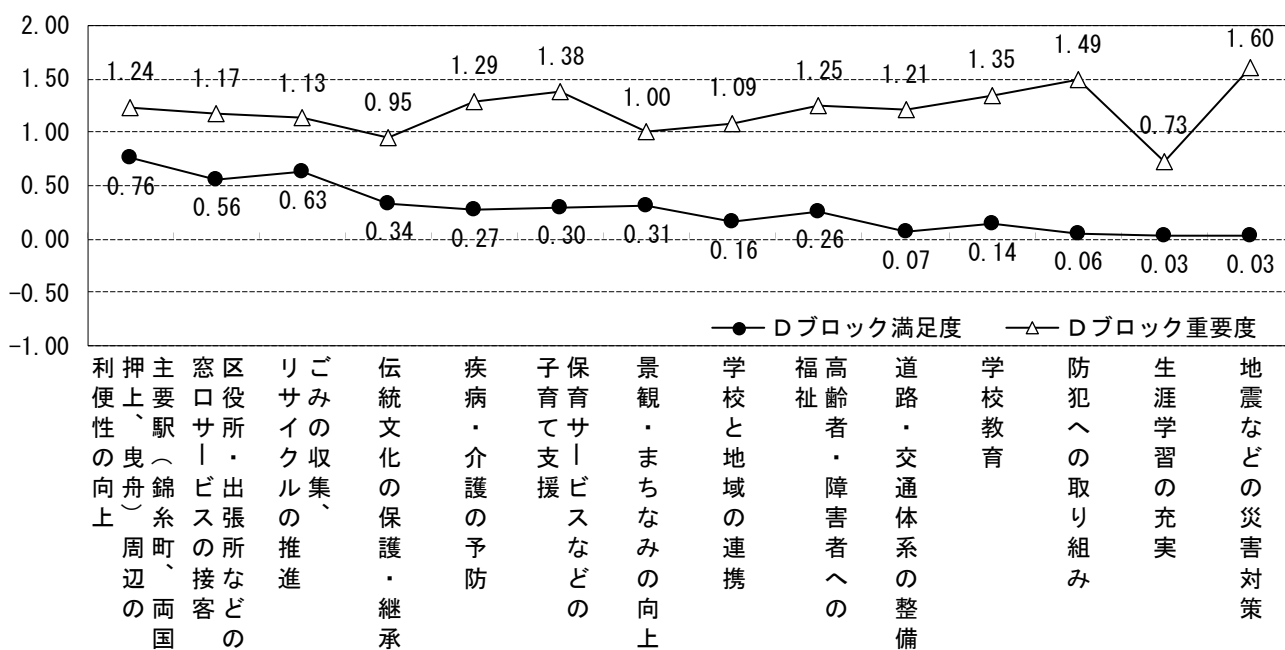
図3-1-6 区の仕事の満足度と重要度（Cブロック）



Dブロックでは、区全体と比べると、満足度で大きな差はみられない。重要度は「区役所・出張所などの窓口サービスの接客」でやや高くなっている。満足度と重要度の点差の大きい項目には「地震などの災害対策」（1.57ポイント差）、「防犯への取り組み」（1.43ポイント差）などがある。

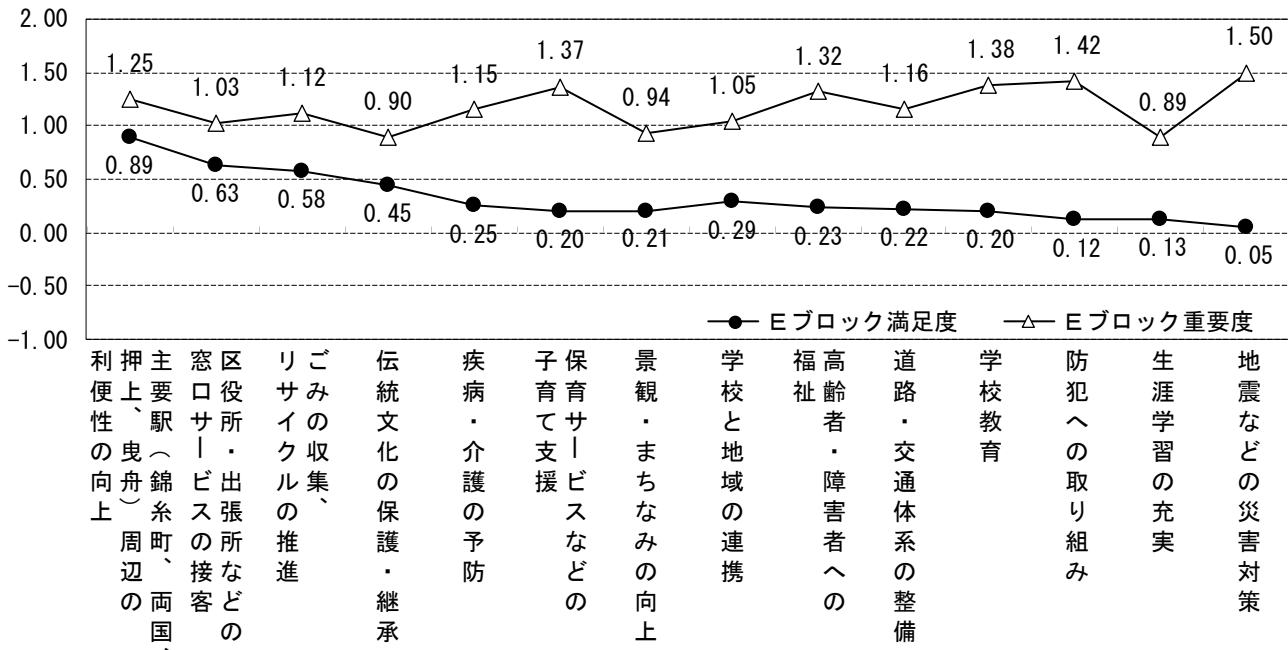
（図3-1-7）

図3-1-7 区の仕事の満足度と重要度（Dブロック）



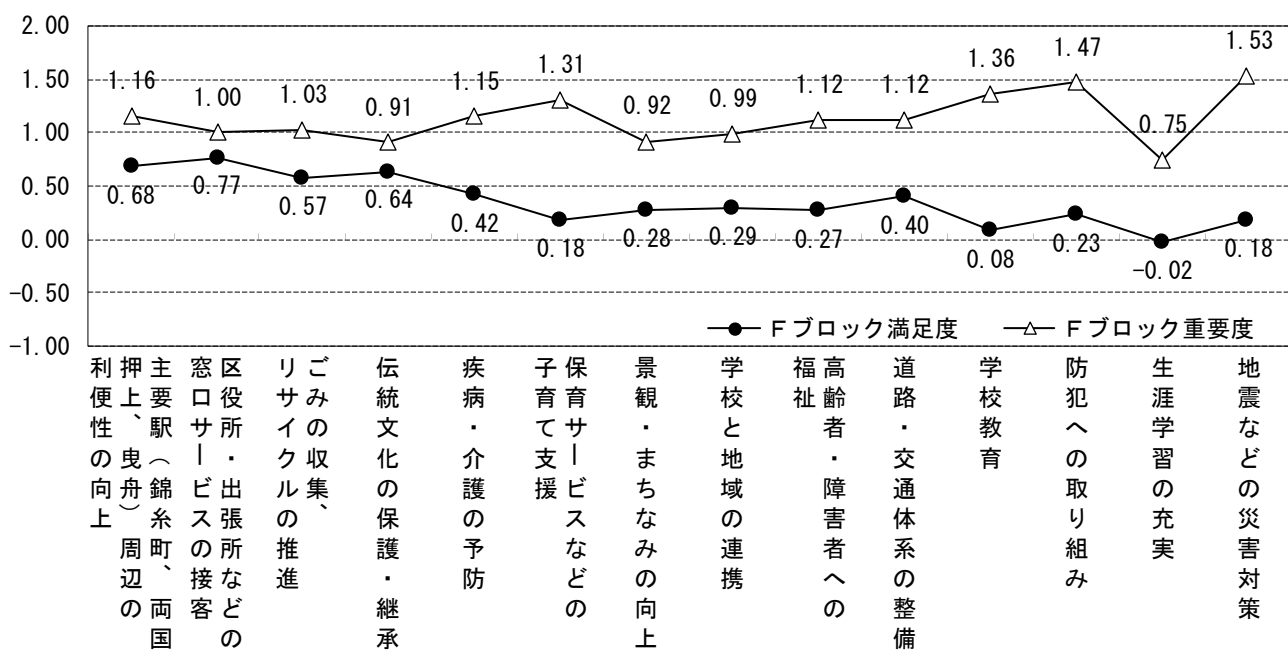
Eブロックでは、区全体と比べると、満足度は「主要駅周辺の利便性の向上」でやや高くなっている。重要度では「高齢者・障害者への福祉」でやや高くなっている。満足度と重要度の点差の大きい項目には「地震などの災害対策」（1.45ポイント差）、「防犯への取り組み」（1.30ポイント差）などがある。（図3-1-8）

図3-1-8 区の仕事の満足度と重要度（Eブロック）



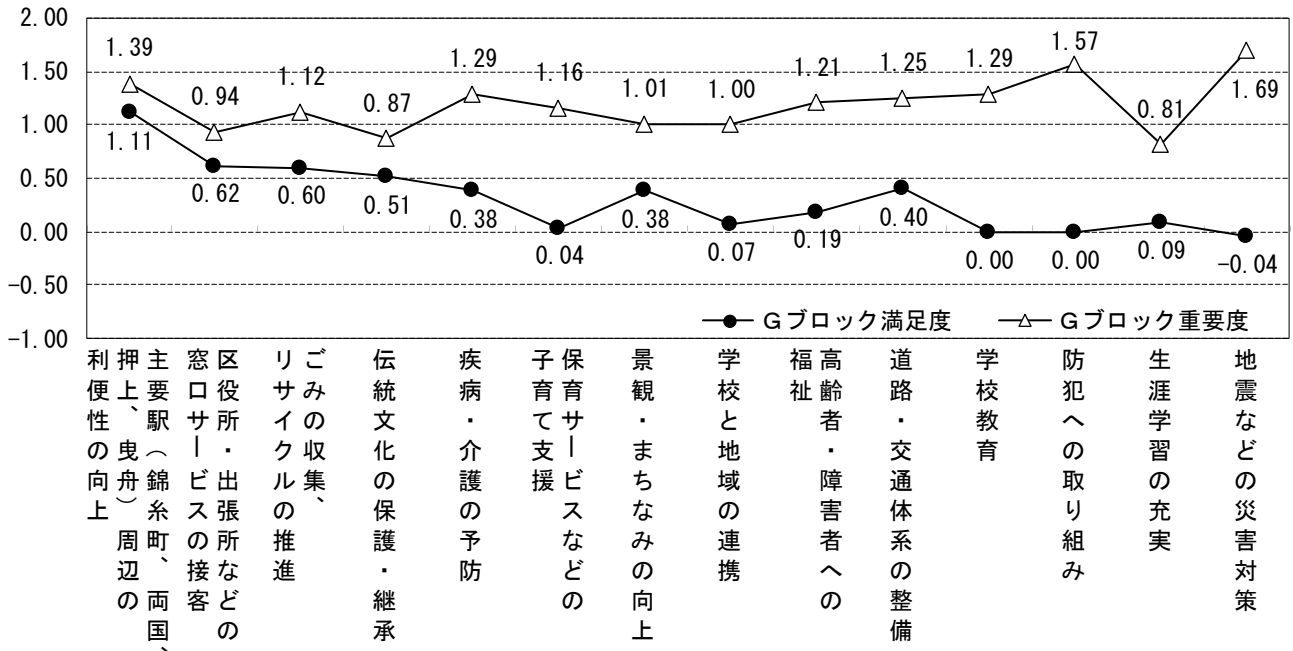
Fブロックでは、区全体と比べると、満足度は「道路・交通体系の整備」で高くなっている。重要度は大きな差はみられない。満足度と重要度の点差の大きい項目には「地震などの災害対策」（1.35ポイント差）、「学校教育」（1.28ポイント差）、「防犯への取り組み」（1.24ポイント差）などがある。（図3-1-9）

図3-1-9 区の仕事の満足度と重要度（Fブロック）



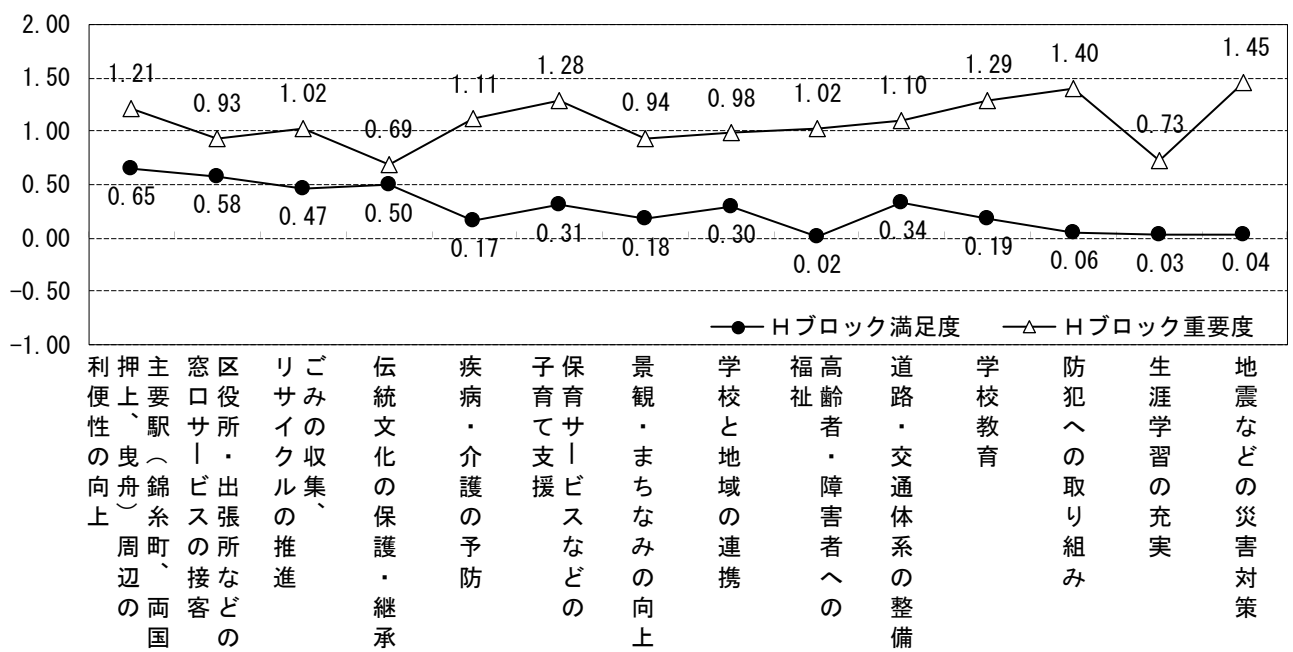
Gブロックでは、区全体と比べると、満足度は「主要駅周辺の利便性の向上」、「道路・交通体系の整備」で高くなっている。重要度は「主要駅周辺の利便性の向上」で高くなっている。満足度と重要度の点差の大きい項目には「地震などの災害対策」（1.73ポイント差）、「防犯への取り組み」（1.57ポイント差）などがある。（図3-1-10）

図3-1-10 区の仕事の満足度と重要度（Gブロック）



Hブロックでは、区全体と比べると、満足度は「高齢者・障害者への福祉」でやや低くなっている。重要度では大きな差はみられない。満足度と重要度の点差の大きい項目には「地震などの災害対策」（1.41ポイント差）、「防犯への取り組み」（1.34ポイント差）などがある。（図3-1-11）

図3-1-11 区の仕事の満足度と重要度（Hブロック）



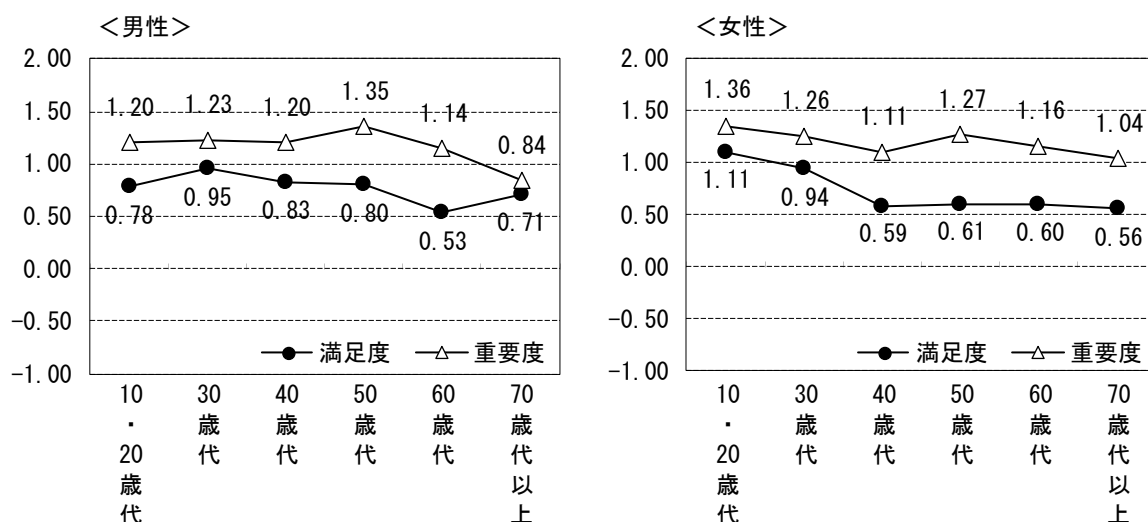
続いて満足度と重要度を性・年代別にみていく。

「主要駅周辺の利便性の向上」では、男性の満足度は30歳代で最も高く、60歳代で最も低くなっており、重要度は50歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は60歳代(0.61ポイント差)で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、70歳代以上で最も低くなっており、重要度は10・20歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代(0.66ポイント差)で大きくなっている。

(図3-1-12)

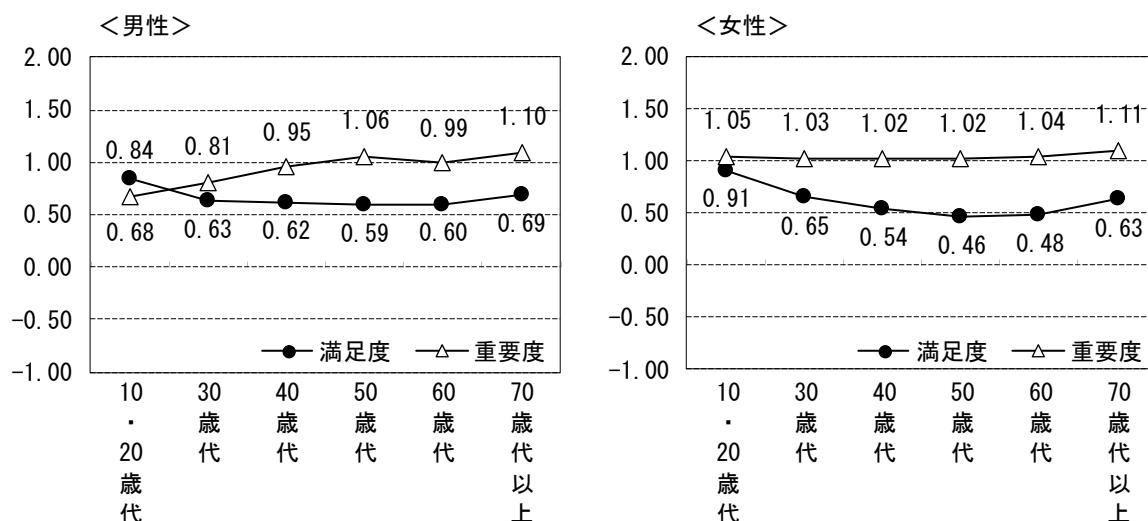
図3-1-12 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度(主要駅周辺の利便性の向上)



「区役所・出張所などの窓口サービスの接客」では、男性の満足度は10・20歳代で最も高く、50歳代で最も低くなっており、重要度は70歳代以上で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代(0.47ポイント差)で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、50歳代で最も低くなっており、重要度は70歳代以上で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代、60歳代(ともに0.56ポイント差)で大きくなっている。(図3-1-13)

図3-1-13 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度(区役所・出張所などの窓口サービスの接客)

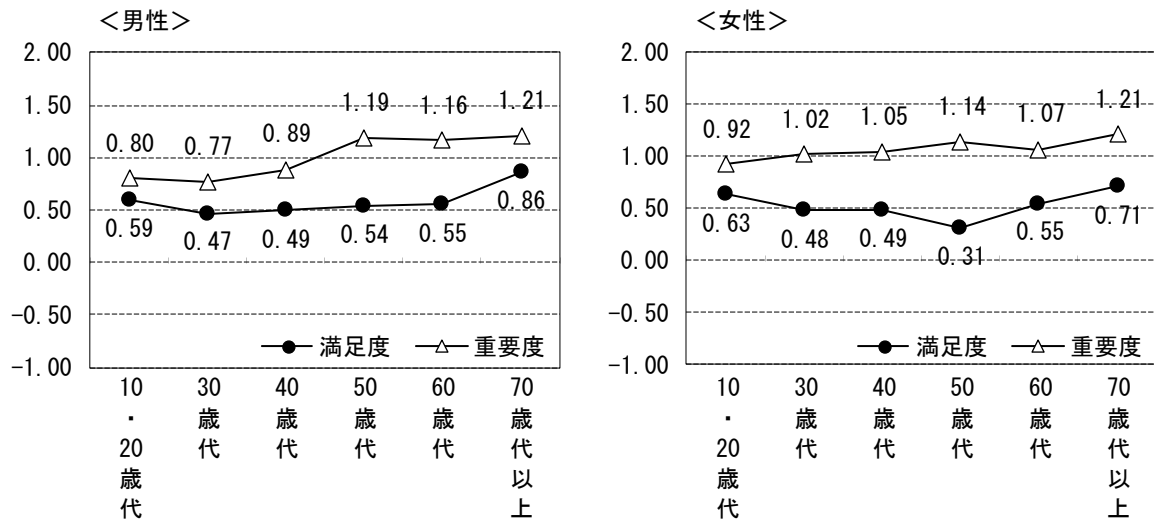


「ごみの収集、リサイクルの推進」では、男性の満足度は70歳代以上で最も高く、30歳代で最も低くなっており、重要度は70歳代以上で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（0.65ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は70歳代以上で最も高く、50歳代で最も低くなっており、重要度は70歳代以上で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（0.83ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-14)

図3-1-14 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（ごみの収集、リサイクルの推進）

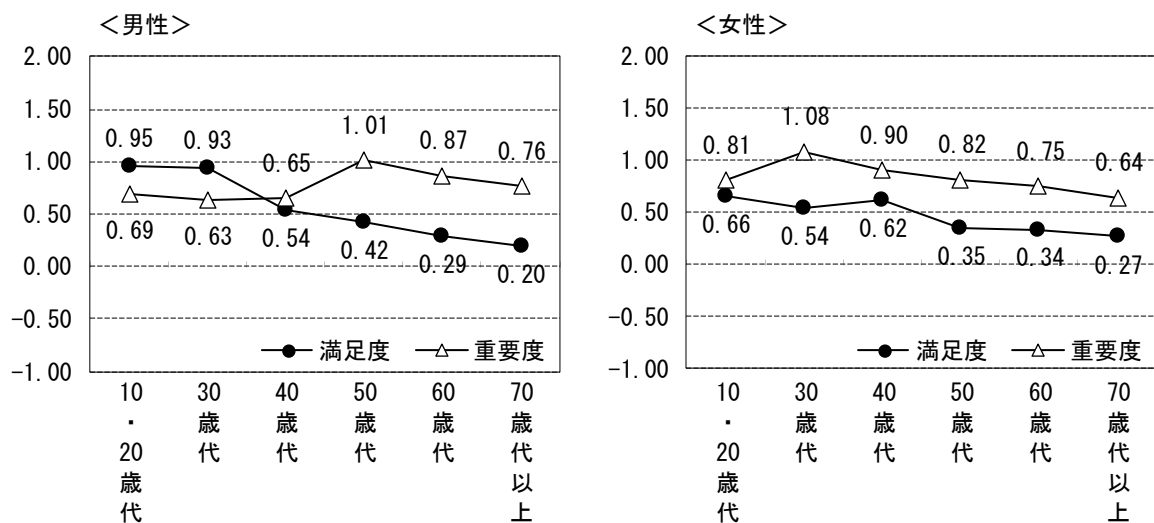


「伝統文化の保護・継承」では、男性の満足度は10・20歳代で最も高く、70歳代以上で最も低くなっており、重要度は50歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（0.59ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、70歳代以上で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は30歳代（0.54ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-15)

図3-1-15 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（伝統文化の保護・継承）

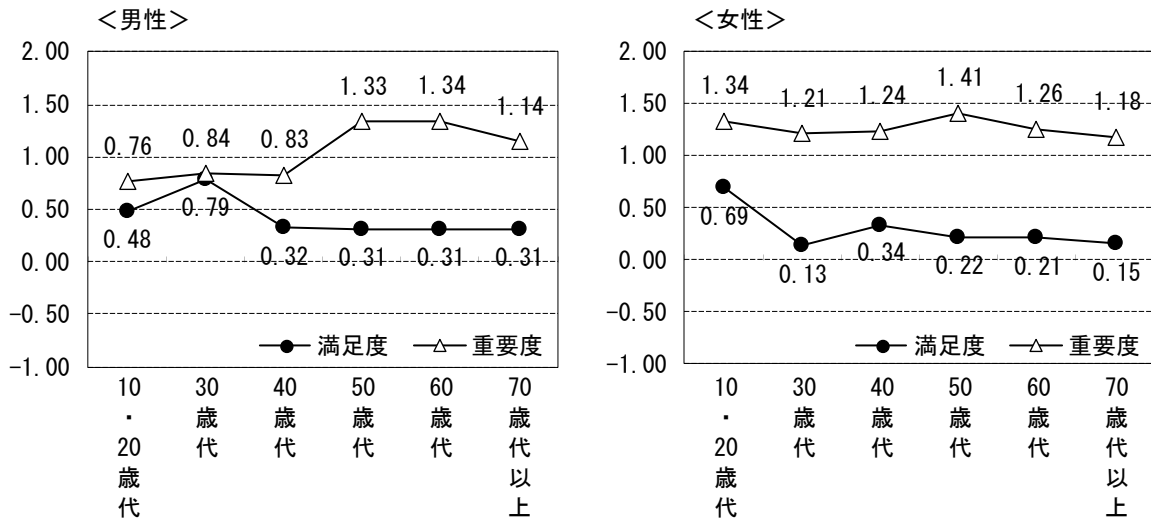


「疾病・介護の予防」では、男性の満足度は30歳代で最も高く、50歳代以上の年代で低くなっており、重要度は60歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は60歳代（1.03ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、30歳代で最も低くなっており、重要度は50歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（1.19ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-16)

図3-1-16 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（疾病・介護の予防）

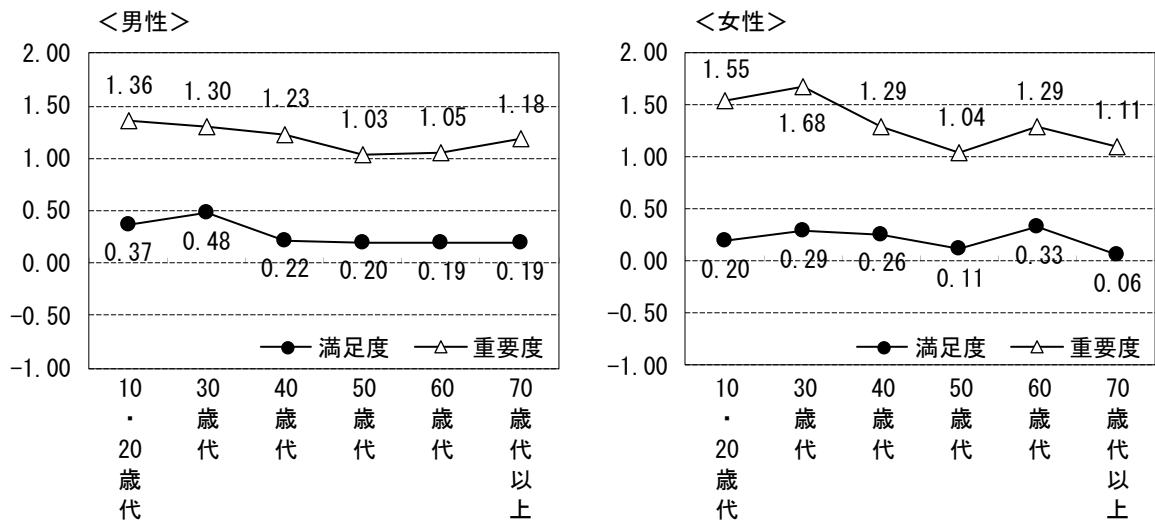


「保育サービスなどの子育て支援」では、男性の満足度は30歳代で最も高く、60歳代、70歳代以上で低くなっており、重要度は10・20歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は40歳代（1.01ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は60歳代で最も高く、70歳代以上で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は30歳代（1.39ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-17)

図3-1-17 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（保育サービスなどの子育て支援）

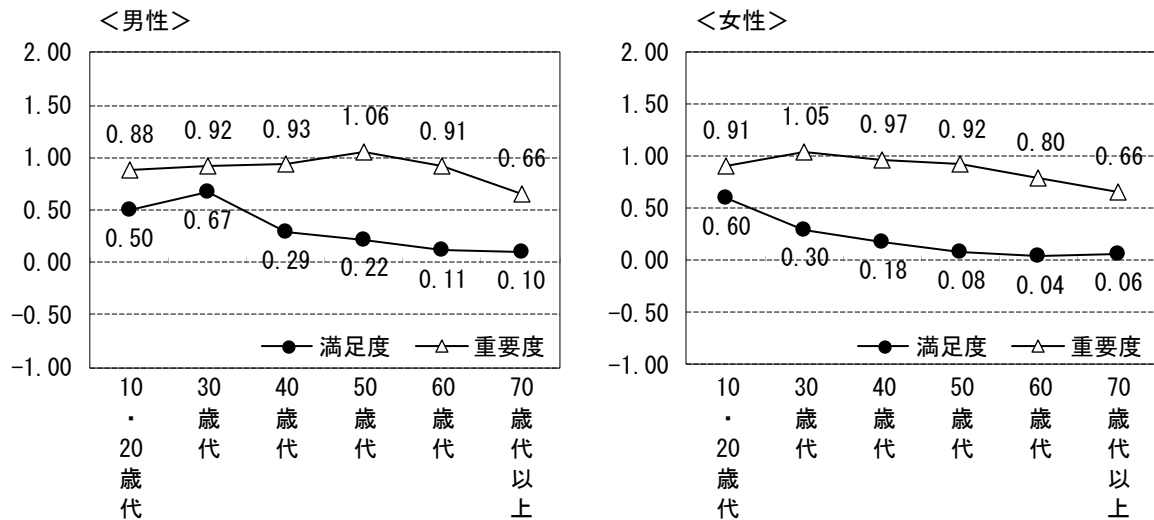


「景観・まちなみの向上」では、男性の満足度は30歳代で最も高く、70歳代以上で最も低くなっており、重要度は50歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代(0.84ポイント差)で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、60歳代で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代(0.84ポイント差)で大きくなっている。

(図3-1-18)

図3-1-18 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度(景観・まちなみの向上)

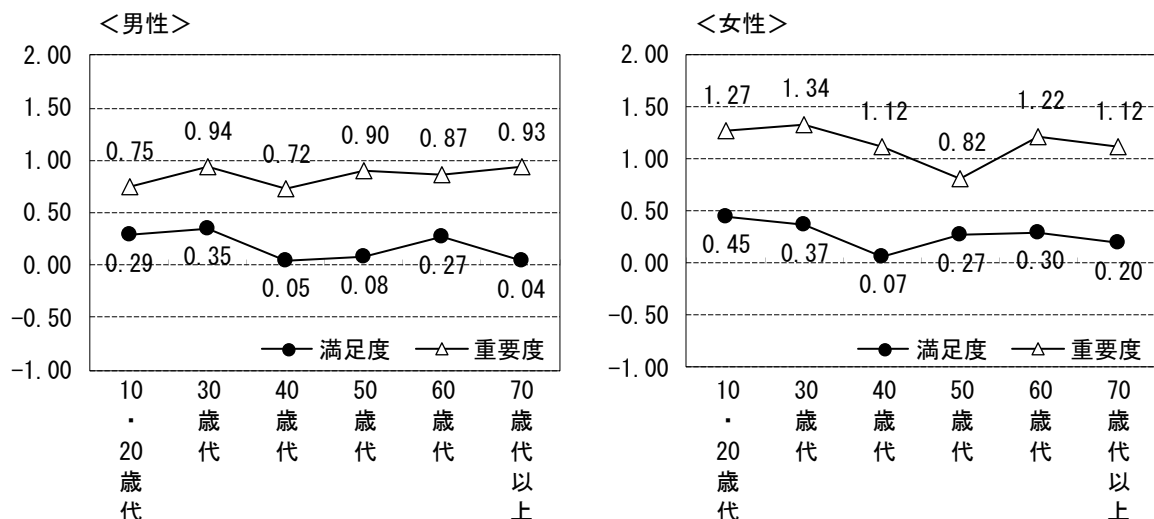


「学校と地域の連携」では、男性の満足度は30歳代で最も高く、70歳代以上で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は70歳代以上(0.89ポイント差)で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、40歳代で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は40歳代(1.05ポイント差)で大きくなっている。

(図3-1-19)

図3-1-19 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度(学校と地域の連携)

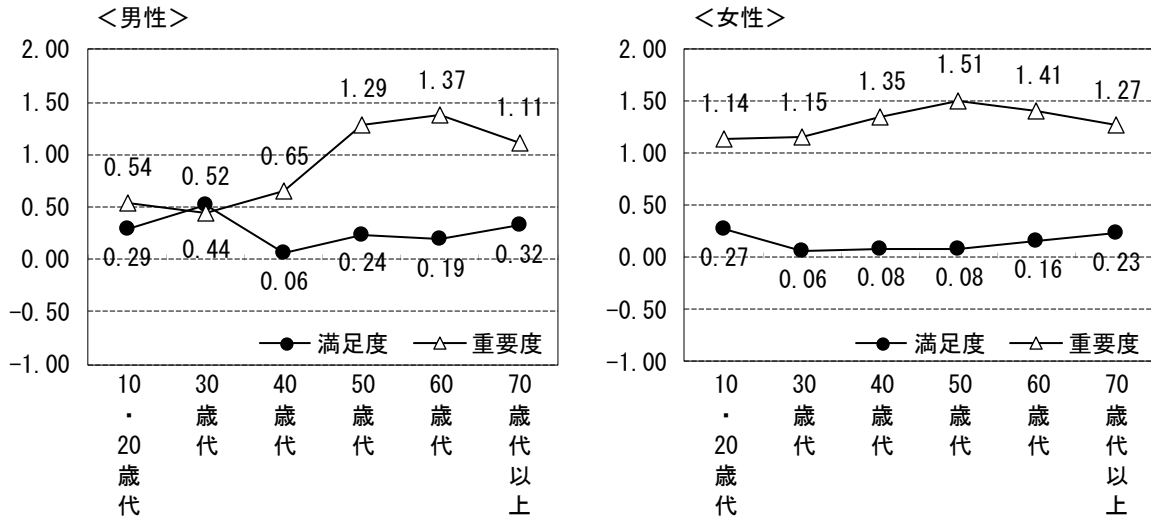


「高齢者・障害者への福祉」では、男性の満足度は30歳代で最も高く、40歳代で最も低くなっており、重要度は60歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は60歳代（1.18ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、30歳代で最も低くなっており、重要度は50歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（1.43ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-20)

図3-1-20 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（高齢者・障害者への福祉）

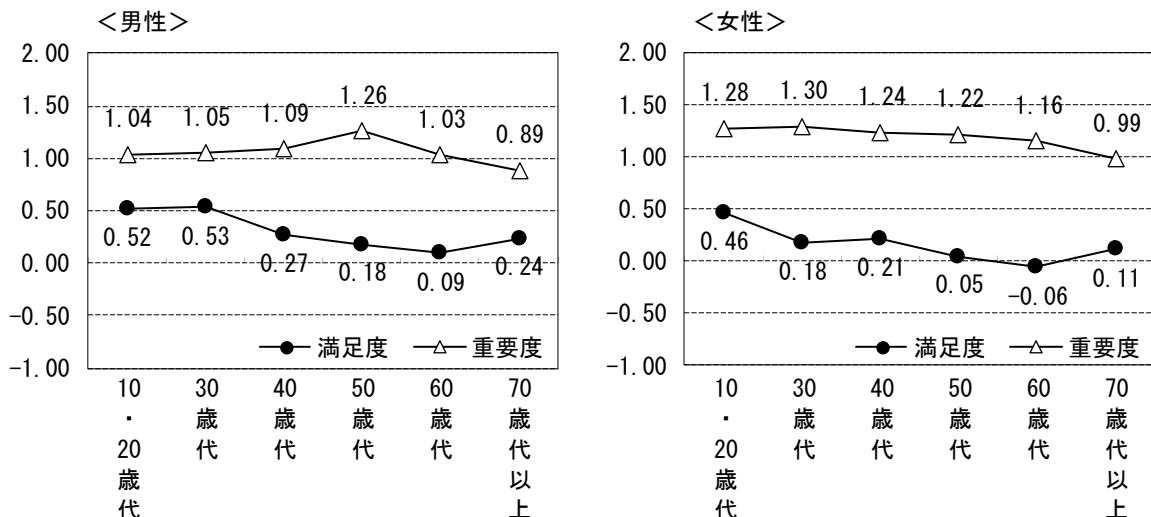


「道路・交通体系の整備」では、男性の満足度は30歳代で最も高く、60歳代で最も低くなっており、重要度は50歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（1.08ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、60歳代で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は60歳代（1.22ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-21)

図3-1-21 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（道路・交通体系の整備）

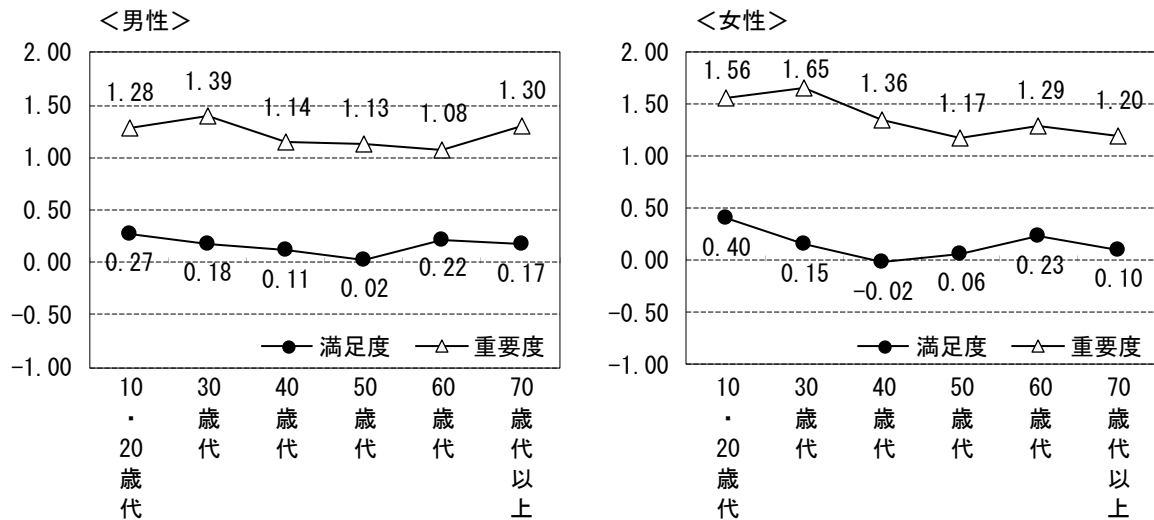


「学校教育」では、男性の満足度は10・20歳代で最も高く、50歳代で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は30歳代（1.21ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、40歳代で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は30歳代（1.50ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-22)

図3-1-22 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（学校教育）

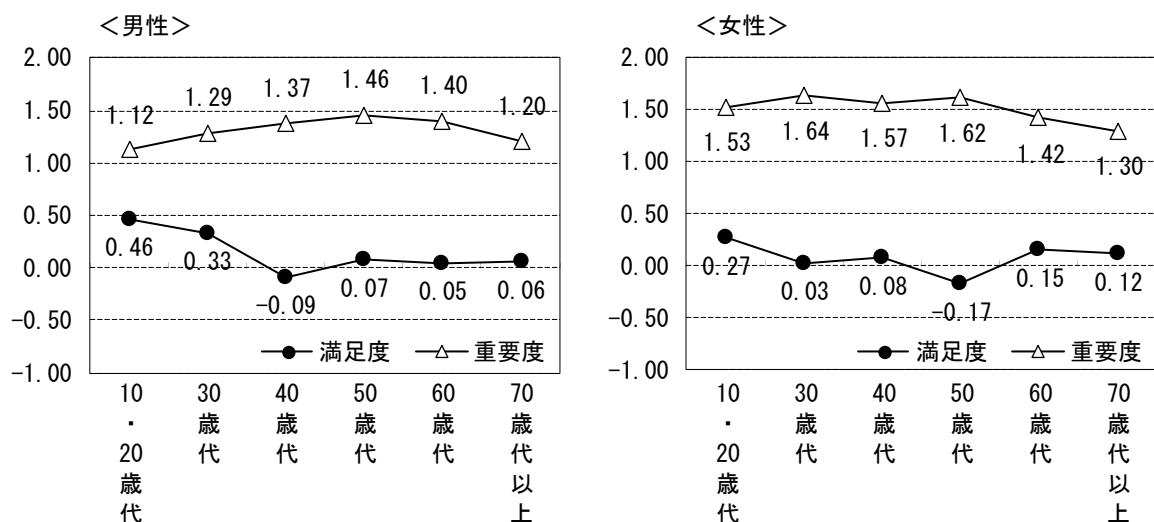


「防犯への取り組み」では、男性の満足度は10・20歳代で最も高く、40歳代で最も低くなっており、重要度は50歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は40歳代（1.46ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、50歳代で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（1.79ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-23)

図3-1-23 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（防犯への取り組み）

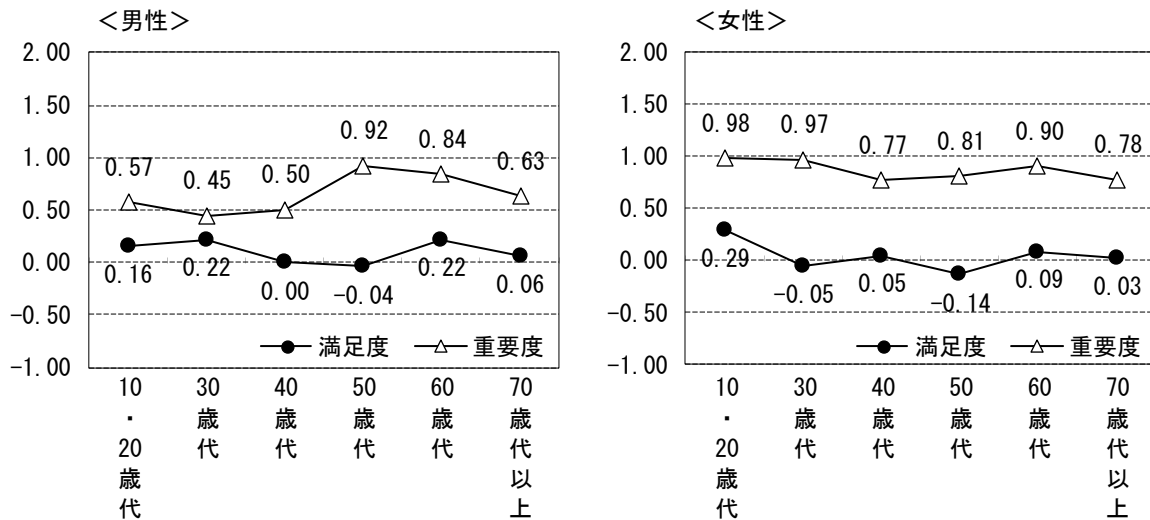


「生涯学習の充実」では、男性の満足度は30歳代、60歳代で高く、50歳代で最も低くなっており、重要度は50歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（0.96ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、50歳代で最も低くなっており、重要度は10・20歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は30歳代（1.02ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-24)

図3-1-24 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（生涯学習の充実）

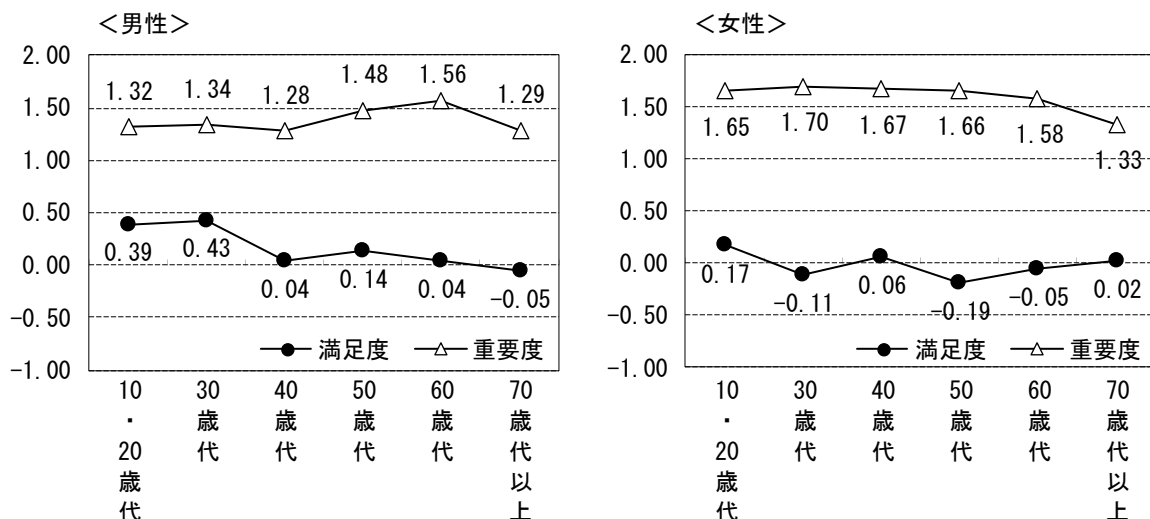


「地震などの災害対策」では、男性の満足度は30歳代で最も高く、70歳代以上で最も低くなっており、重要度は60歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は60歳代（1.52ポイント差）で大きくなっている。

女性の満足度は10・20歳代で最も高く、50歳代で最も低くなっており、重要度は30歳代で最も高くなっている。満足度と重要度の点差は50歳代（1.85ポイント差）で大きくなっている。

(図3-1-25)

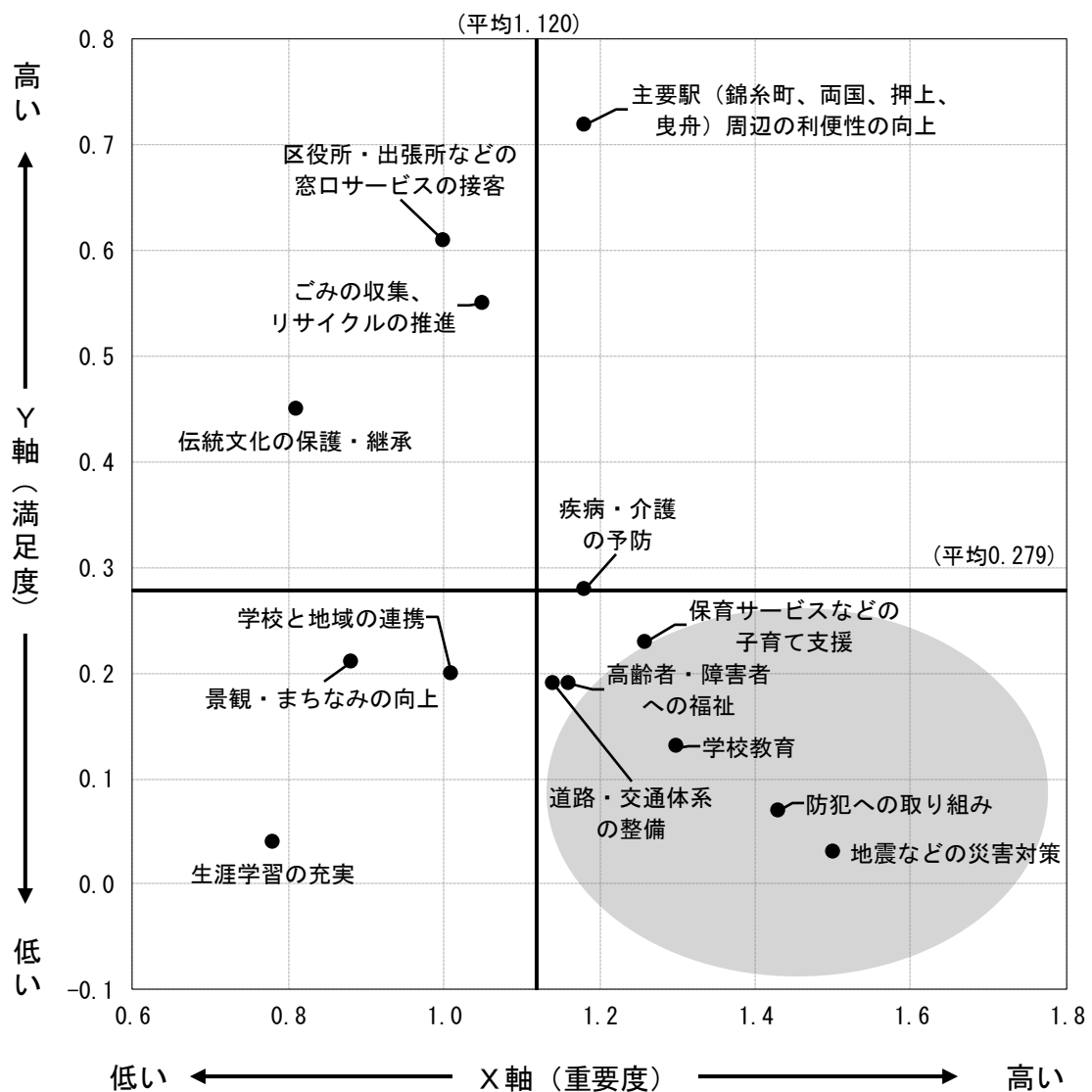
図3-1-25 性・年代別 区の仕事の満足度と重要度（地震などの災害対策）



評価点の散布図

図3-1-26は縦軸に満足度、横軸に重要度をあらわし、両者の相関関係を示したものである。図中の右側に位置する項目ほど重要視されており、また、下側に位置する項目は不満度が高いということになる。図中の網掛け部分の項目は重要視されているにもかかわらず評価が比較的低いものであり、今後の拡充がもとめられる分野と考えられる。これに位置する項目は、「地震などの災害対策」、「防犯への取り組み」、「学校教育」、「高齢者・障害者への福祉」、「道路・交通体系の整備」、「保育サービスなどの子育て支援」があげられる。(図3-1-26)

図3-1-26 区の仕事の満足度と重要度（散布図）

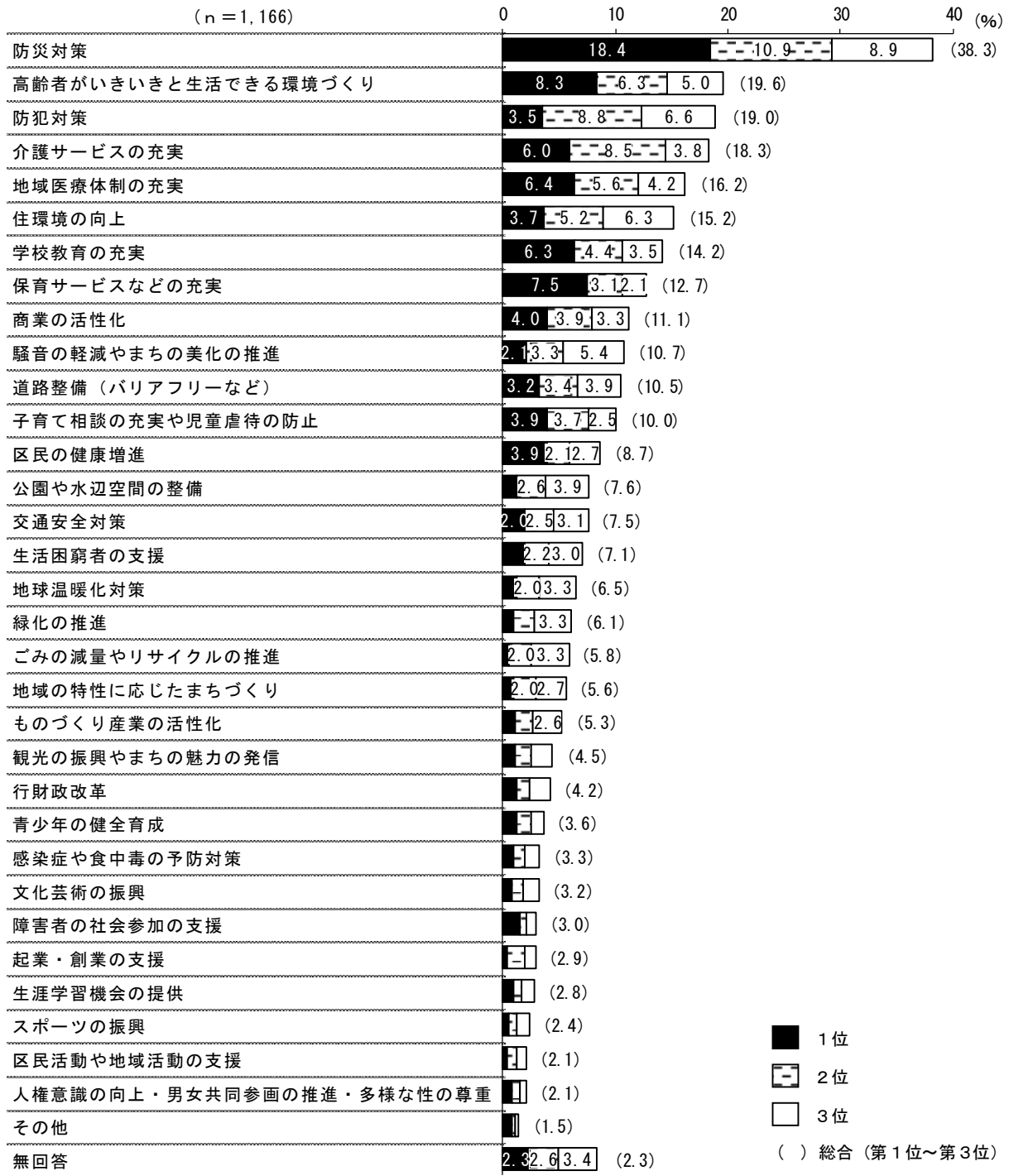


3-2 力を入れるべき施策

● 【総合】では「防災対策」が4割近く

問6 あなたが区の施策のうち特に力を入れてほしいと思うものを3つ選び、1位、2位、3位と順位をつけて、下の回答欄に番号を記入してください。

図3-2-1



力を入れてほしい施策に【第1位】から【第3位】までの順位をつけてもらった。【第1位】では「防災対策」(18.4%)が最も高く、次いで「高齢者がいきいきと生活できる環境づくり」(8.3%)、「保育サービスなどの充実」(7.5%)となっている。【第2位】では「防災対策」(10.9%)が最も高く、【第3位】でも「防災対策」(8.9%)が最も高くなっている。

【第1位】から【第3位】までを合わせた【総合】では、「防災対策」(38.3%)が4割近くで最も高く、次いで「高齢者がいきいきと生活できる環境づくり」(19.6%)、「防犯対策」(19.0%)となっている。(図3-2-1)

【総合】を性別で見ると、男女ともに「防災対策」が第1位となっている。男性では「高齢者がいきいきと生活できる環境づくり」が、女性では「介護サービスの充実」が第2位となっている。

性・年代別で見ると、「防災対策」は男性10・20歳代、50歳代、60歳代で、女性10・20歳代、40歳代から60歳代の年代で第1位となっている。「高齢者がいきいきと生活できる環境づくり」は男女ともに70歳代以上で第1位となっている。

ブロック別で見ると、全てのブロックで「防災対策」が第1位となっている。(表3-2-1)

表3-2-1 性別、性・年代別、ブロック別 力を入れるべき施策【総合】

分析項目		n	第1位		第2位		第3位				
全体		(1,166)	防災対策	38.3	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり	19.6	防犯対策	19.0			
性別	男性	(461)	防災対策	35.1	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり	20.4	防犯対策	20.2			
	女性	(667)	防災対策	40.9	介護サービスの充実	22.8	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり	18.7			
性・年代別	男性	10・20歳代 (50)	防災対策	40.0	保育サービスなどの充実／学校教育の充実		26.0				
		30歳代 (61)	学校教育の充実／住環境の向上			26.2	防災対策		24.6		
		40歳代 (77)	住環境の向上		26.0	防災対策／防犯対策			24.7		
		50歳代 (86)	防災対策	41.9	防犯対策		26.7	地域医療体制の充実		19.8	
		60歳代 (90)	防災対策	42.2	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり		33.3	防犯対策		23.3	
		70歳代以上 (96)	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり		41.7	防災対策		35.4	介護サービスの充実		26.0
		女性	10・20歳代 (75)	防災対策	44.0	保育サービスなどの充実		22.7	学校教育の充実		21.3
	30歳代 (106)		保育サービスなどの充実		42.5	防災対策		39.6	学校教育の充実		27.4
	40歳代 (111)		防災対策		45.9	学校教育の充実		25.2	防犯対策		21.6
	50歳代 (139)		防災対策		44.6	介護サービスの充実		30.9	地域医療体制の充実		27.3
	60歳代 (86)		防災対策		41.9	地域医療体制の充実		27.9	介護サービスの充実		26.7
	70歳代以上 (150)		高齢者がいきいきと生活できる環境づくり		44.7	介護サービスの充実		41.3	防災対策		32.7
	ブロック別		Aブロック (147)	防災対策		40.1	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり		25.9	介護サービスの充実	
		Bブロック (110)	防災対策		37.3	防犯対策		28.2	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり		21.8
Cブロック (95)		防災対策		41.1	地域医療体制の充実		25.3	介護サービスの充実		23.2	
Dブロック (129)		防災対策		38.0	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり		22.5	介護サービスの充実		21.7	
Eブロック (139)		防災対策		38.8	高齢者がいきいきと生活できる環境づくり		21.6	防犯対策		19.4	
Fブロック (177)		防災対策		41.2	住環境の向上		19.8	防犯対策		18.6	
Gブロック (136)		防災対策		30.1	防犯対策		22.1	住環境の向上／騒音の軽減やまちの美化の推進		18.4	
Hブロック (195)		防災対策		39.5	保育サービスなどの充実／住環境の向上				17.9		

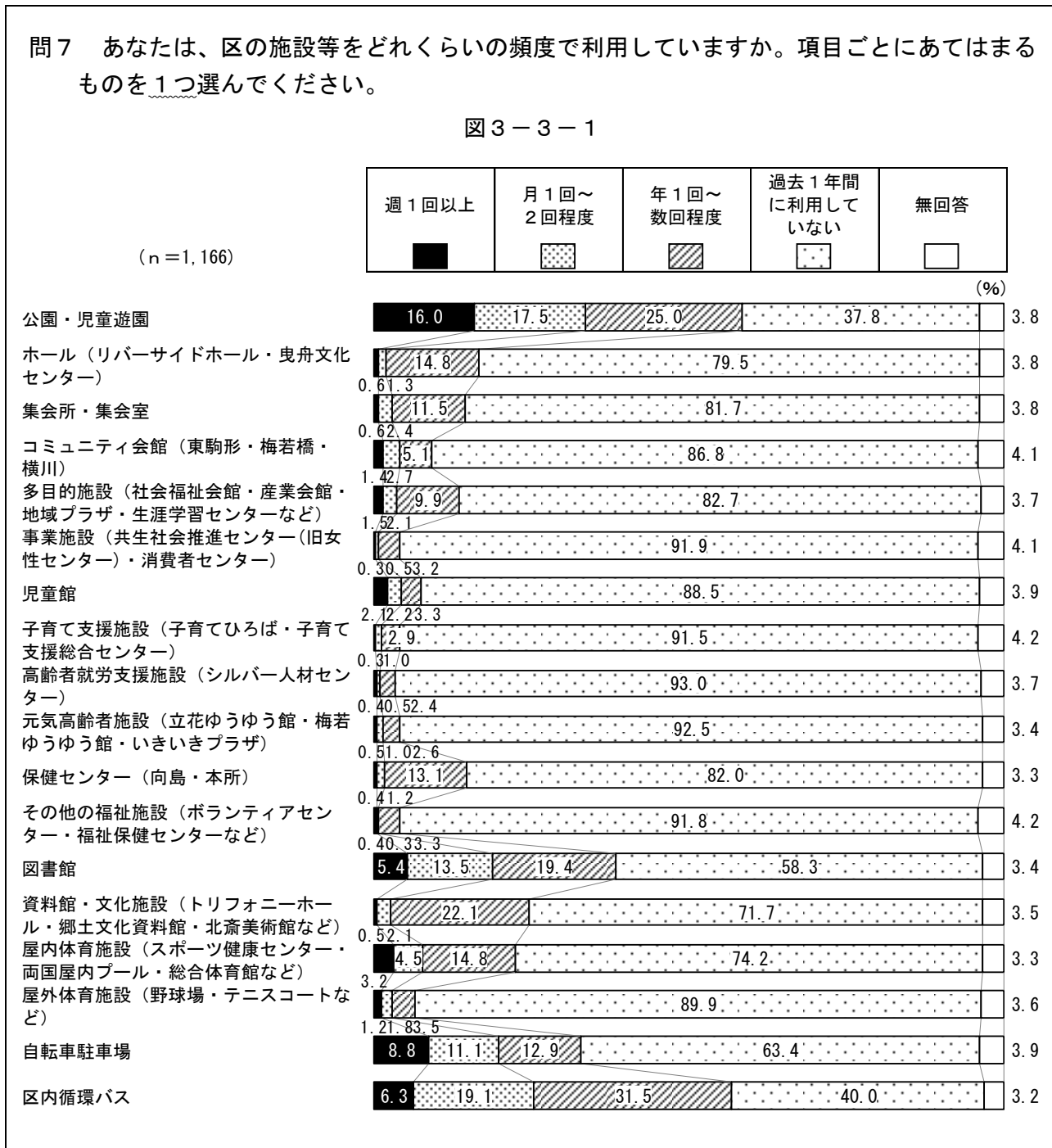
3-3 区の施設の利用頻度と利用しなかった理由

(1) 区の施設の利用頻度

- 『週1回以上』で「公園・児童遊園」、『月1回～2回程度』、『年1回～数回程度』で「区内循環バス」が高い

問7 あなたは、区の施設等をどれくらいの頻度で利用していますか。項目ごとにあてはまるものを1つ選んでください。

図3-3-1



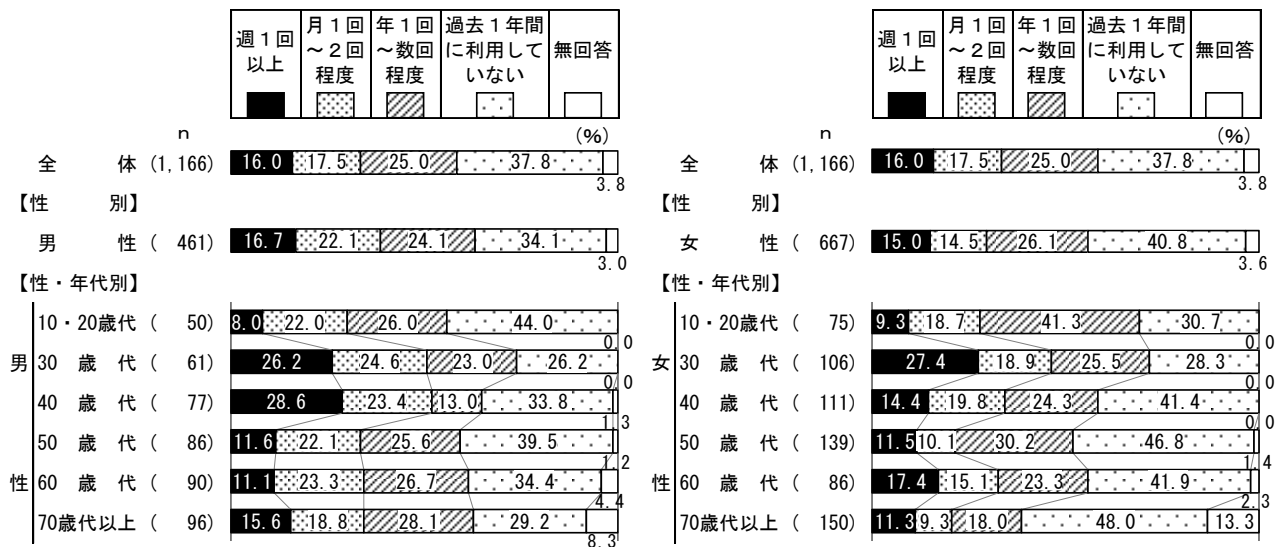
区の18の施設等に関して、利用頻度を聞いたところ、『週1回以上』は「公園・児童遊園」(16.0%)で最も高くなっている。『月1回～2回程度』は「区内循環バス」(19.1%)で、『年1回～数回程度』は「区内循環バス」(31.5%)で最も高くなっている。一方、『過去1年間に利用していない』は「高齢者就労支援施設（シルバー人材センター）」(93.0%)で最も高くなっている。

(図3-3-1)

「公園・児童遊園」では、性別でみると、「月1回～2回程度」は男性が女性より7.6ポイント高く、「過去1年間に利用していない」は女性が男性より6.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「週1回以上」は男性40歳代、女性30歳代で3割近くと高く、「過去1年間に利用していない」は女性70歳代以上で5割近くと高くなっている。(図3-3-2)

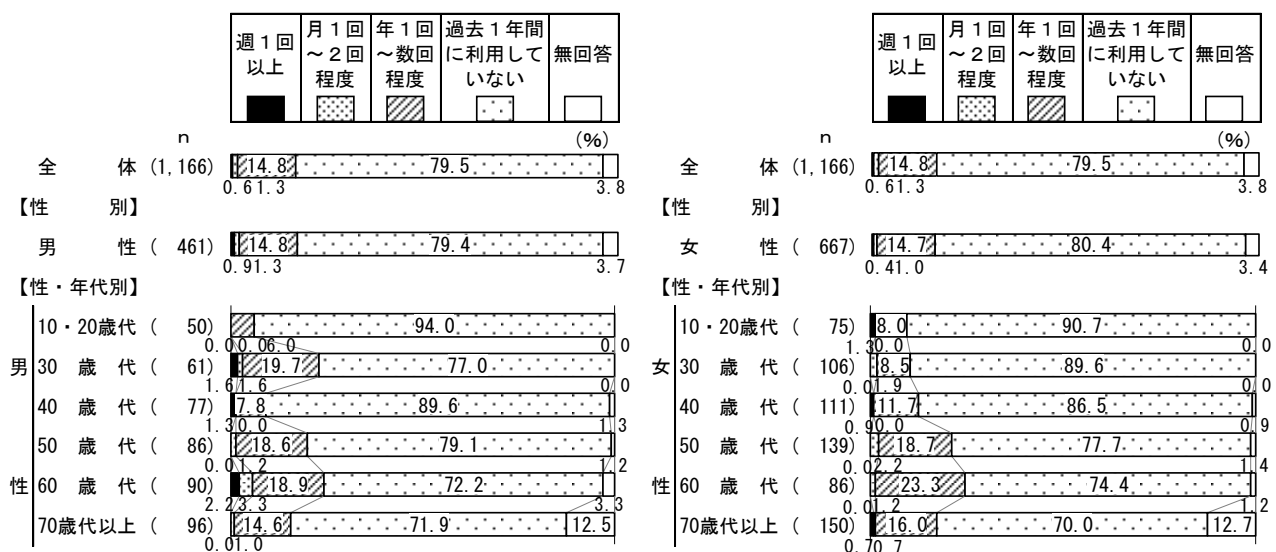
図3-3-2 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度(公園・児童遊園)



「ホール」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は男女ともに10・20歳代で9割を超えて高くなっている。(図3-3-3)

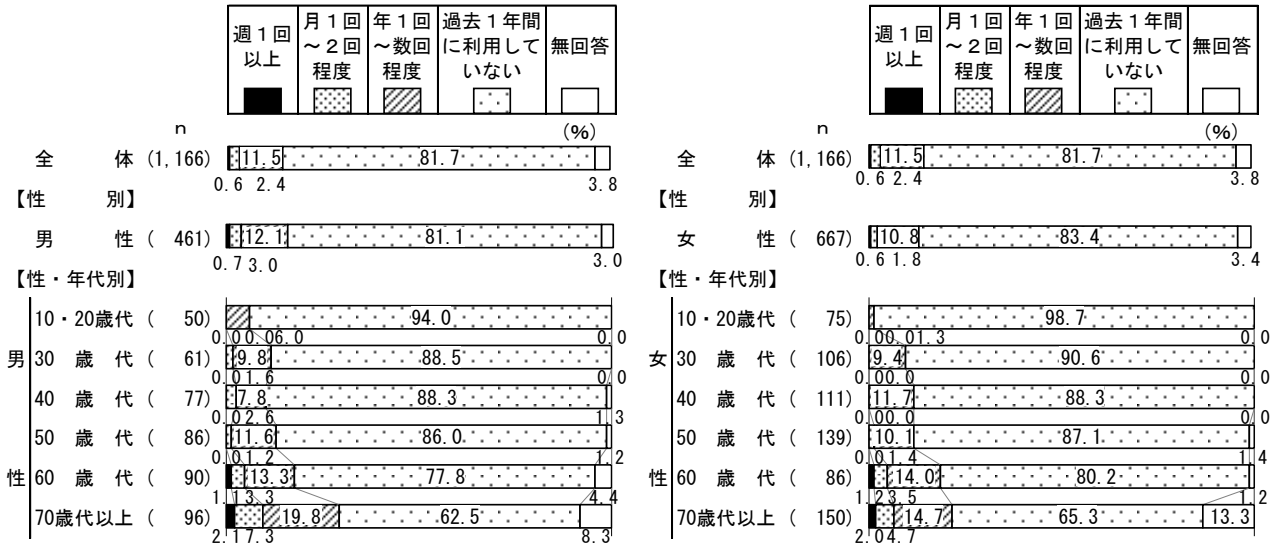
図3-3-3 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度(ホール)



「集会所・集会室」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は男性10・20歳代、女性10・20歳代、30歳代で9割を超えて高くなっている。(図3-3-4)

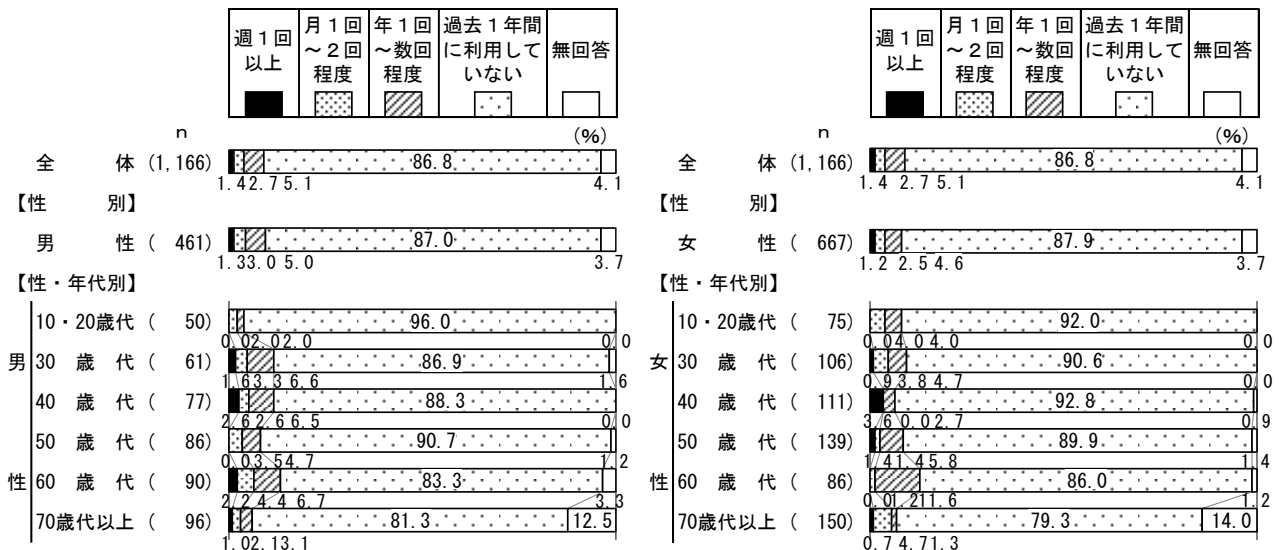
図3-3-4 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度(集会所・集会室)



「コミュニティ会館」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は、男性は10・20歳代が最も高く9割台半ば、女性は40歳代が最も高く9割を超えて高くなっている。(図3-3-5)

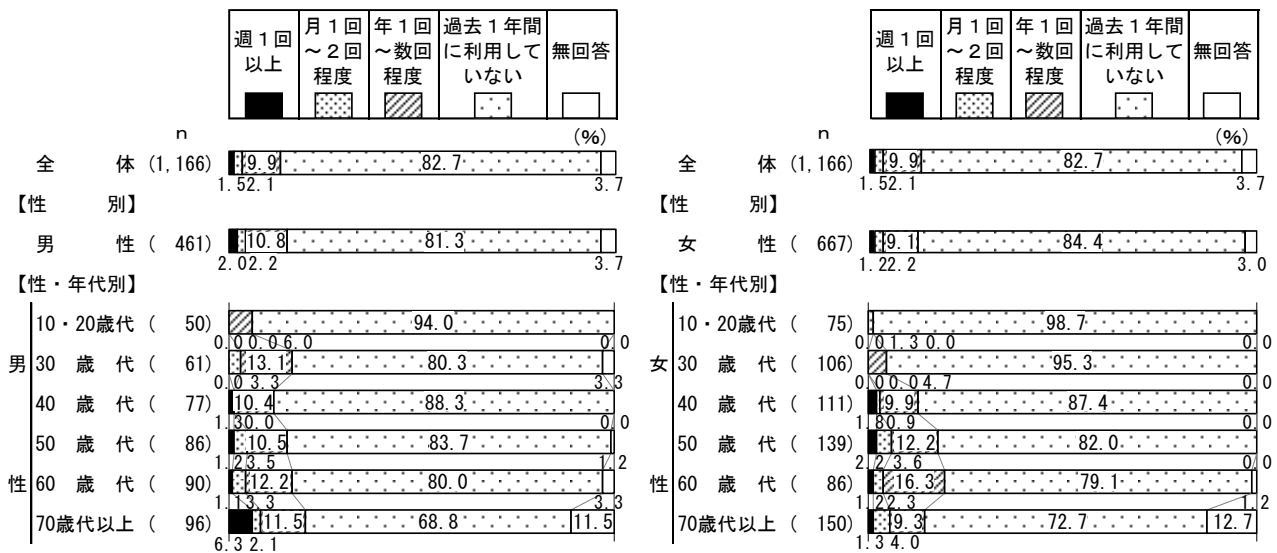
図3-3-5 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度(コミュニティ会館)



「多目的施設」では、性別で見ると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別で見ると、「過去1年間に利用していない」は男性10・20歳代、女性10・20歳代、30歳代で9割を超えて高くなっている。(図3-3-6)

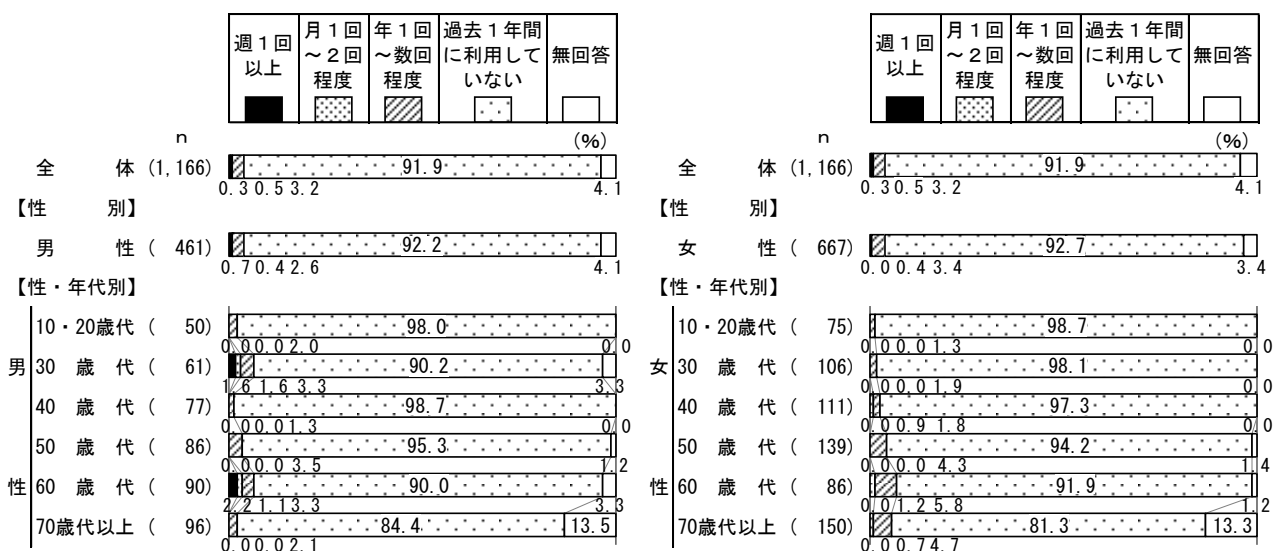
図3-3-6 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（多目的施設）



「事業施設」では、性別で見ると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別で見ると、「過去1年間に利用していない」は男女ともに60歳代以下の年代で9割台となっている。(図3-3-7)

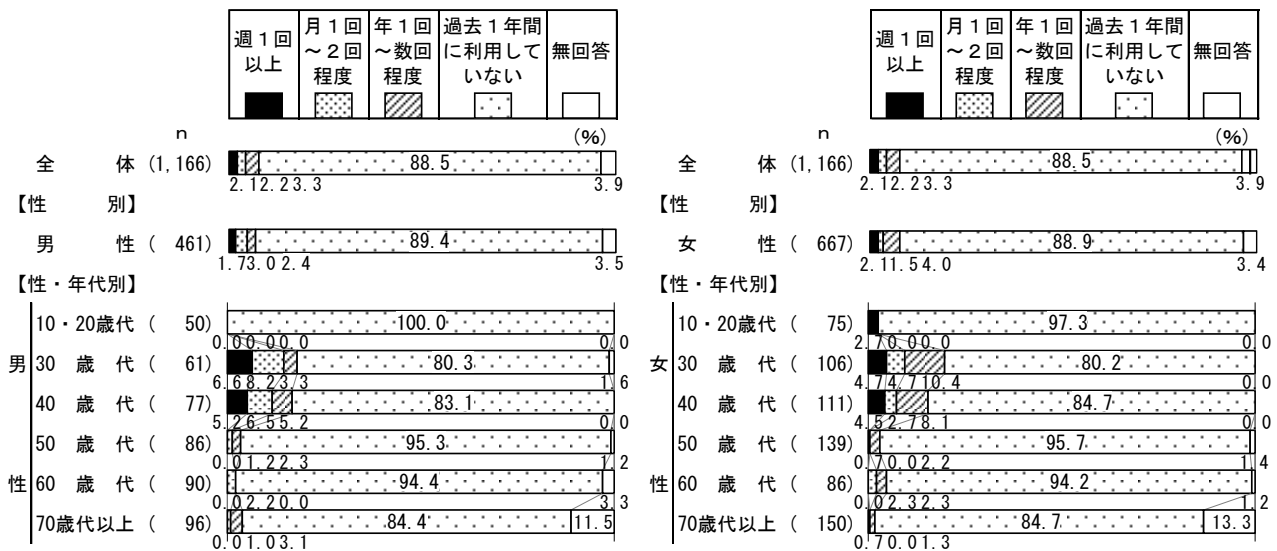
図3-3-7 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（事業施設）



「児童館」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は男女ともに10・20歳代、50歳代、60歳代で9割台半ば以上と高くなっている。(図3-3-8)

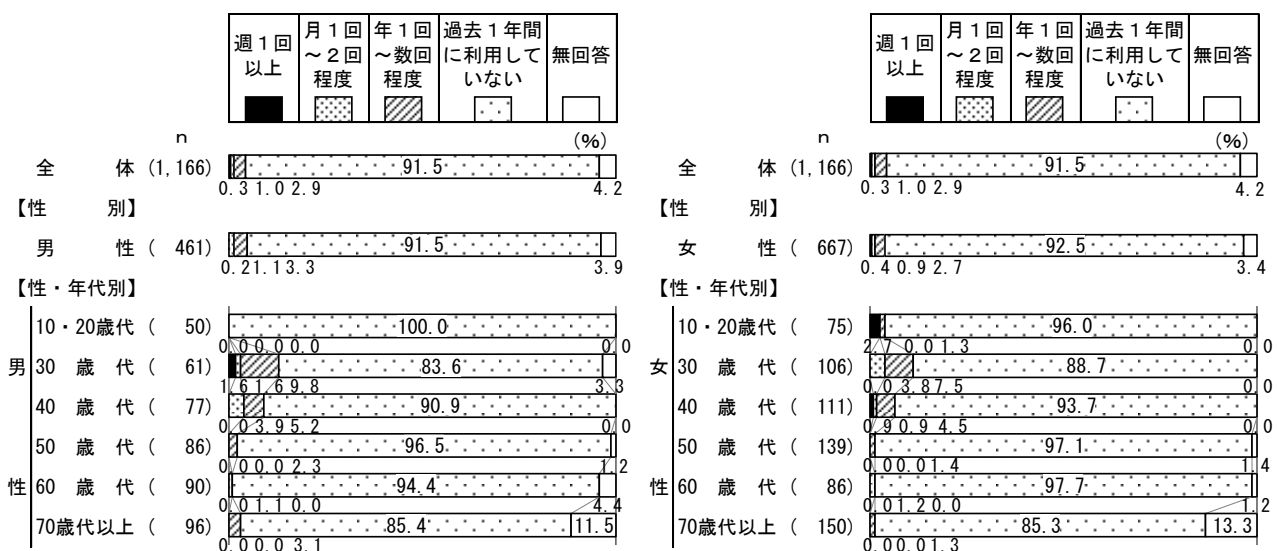
図3-3-8 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（児童館）



「子育て支援施設」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は男女ともに30歳代、70歳代以上を除く年代で9割を超えている。(図3-3-9)

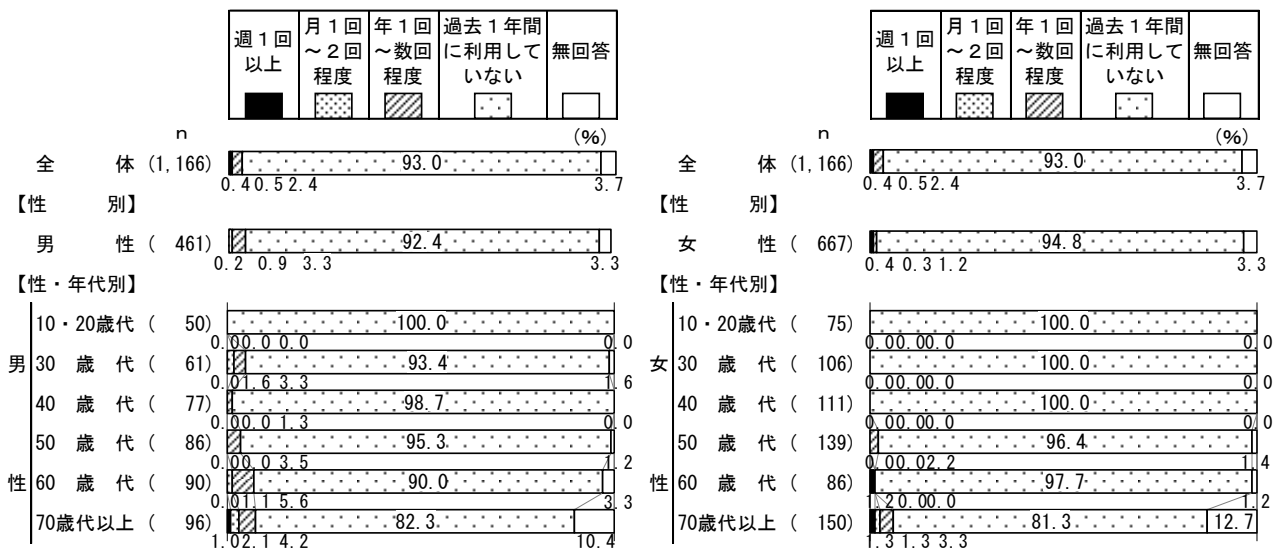
図3-3-9 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（子育て支援施設）



「高齢者就労支援施設」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は男女ともに60歳代以下の年代で9割を超えている。(図3-3-10)

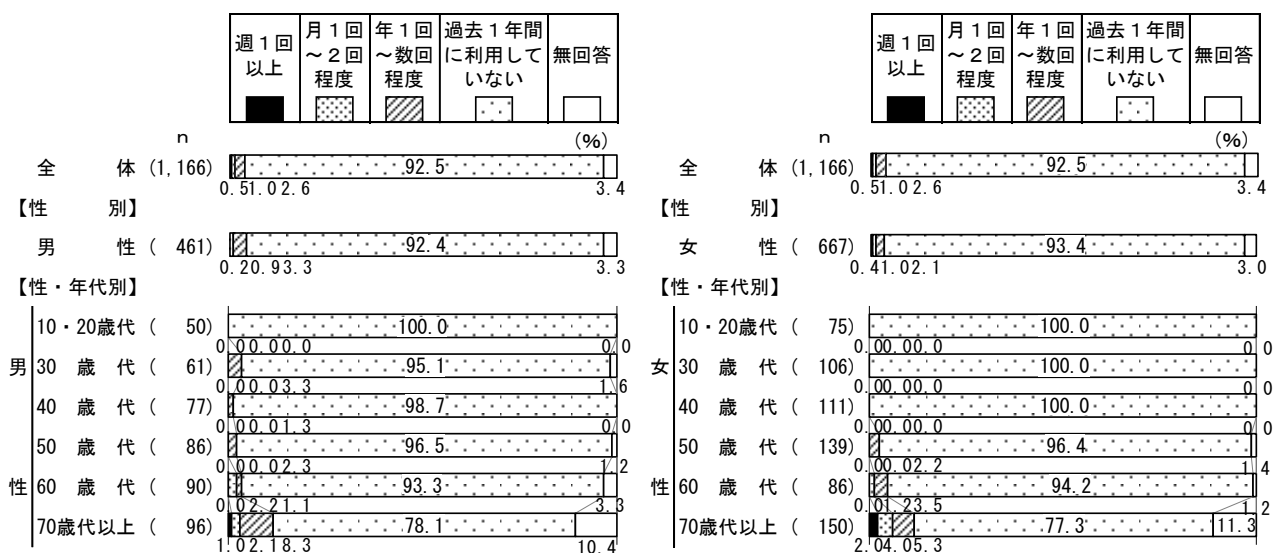
図3-3-10 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（高齢者就労支援施設）



「元気高齢者施設」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は、男女ともに60歳代以下の年代で9割以上となっている。(図3-3-11)

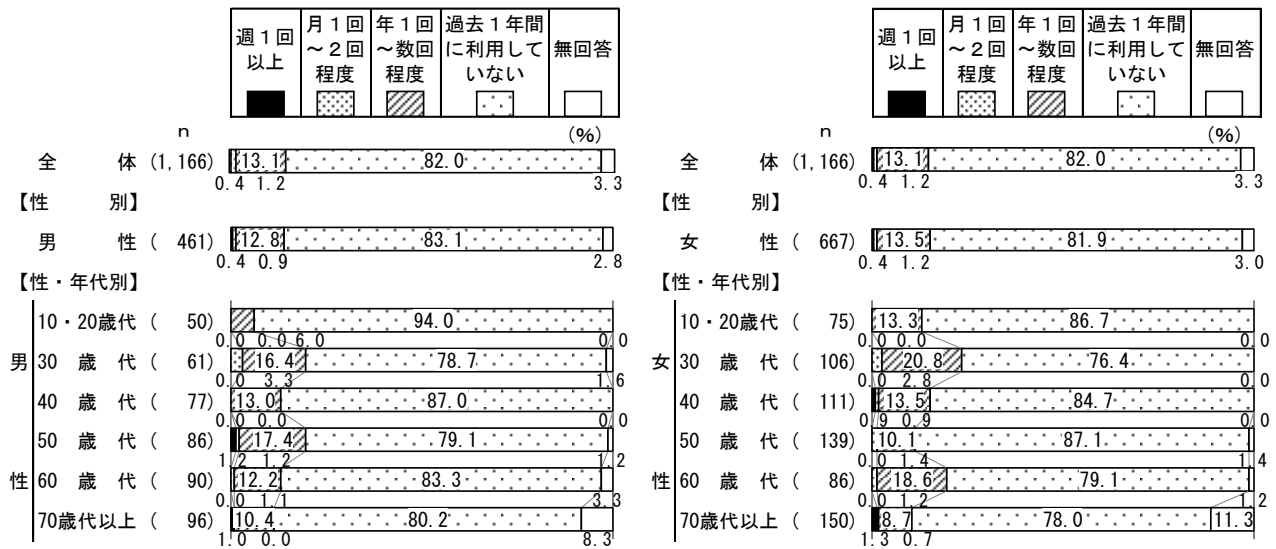
図3-3-11 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（元気高齢者施設）



「保健センター」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は男性10・20歳代で9割台半ばと高くなっている。(図3-3-12)

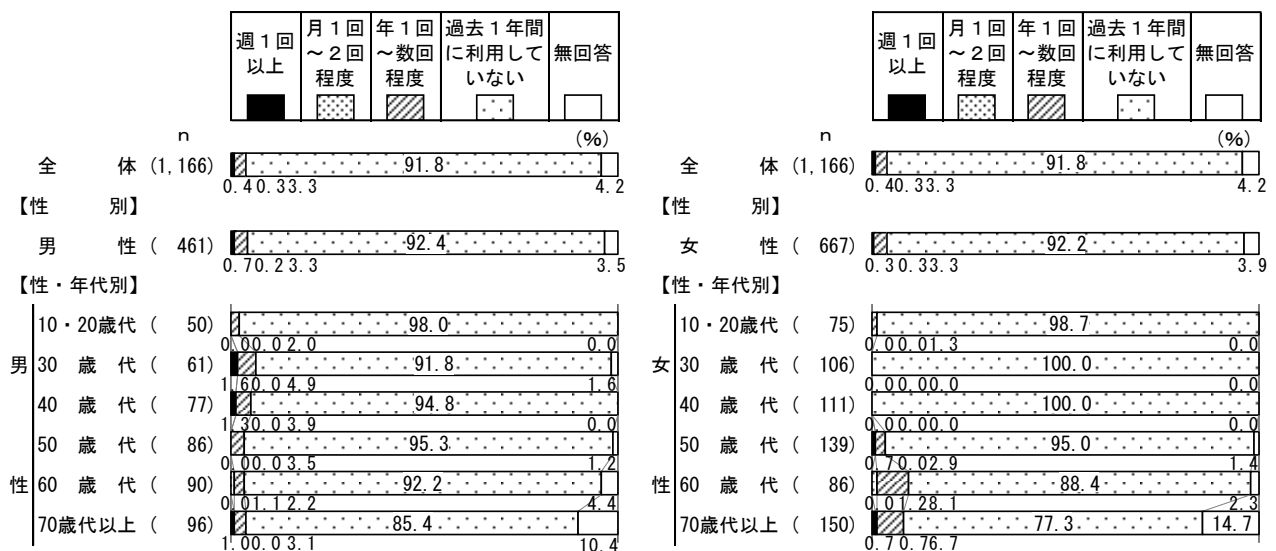
図3-3-12 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（保健センター）



「その他の福祉施設」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は男性60歳代以下、女性50歳代以下の年代で9割を超えている。(図3-3-13)

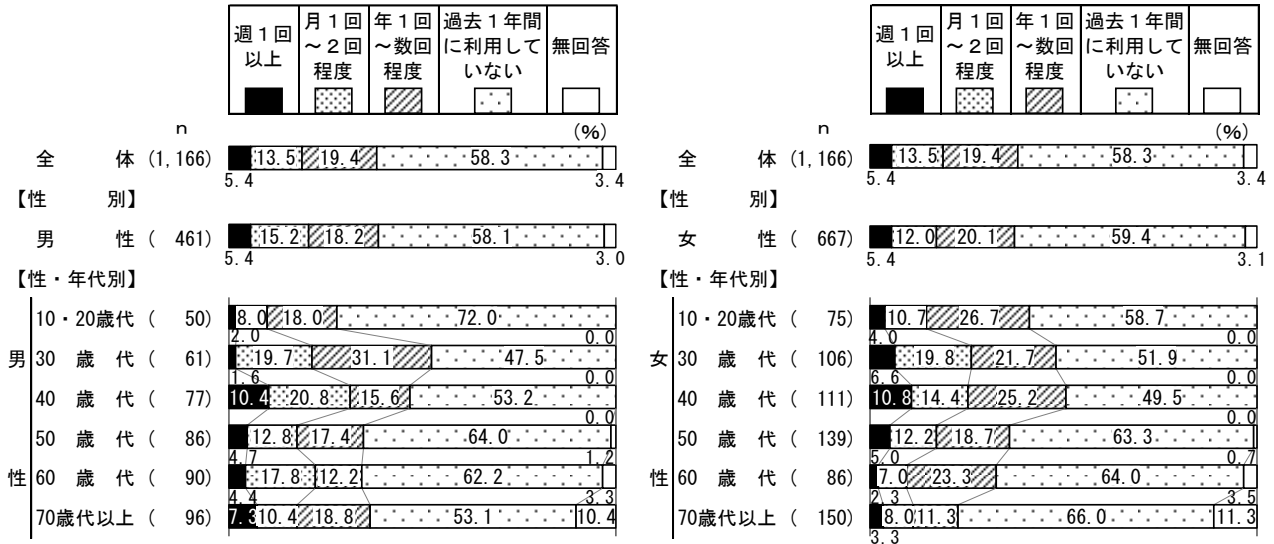
図3-3-13 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（その他の福祉施設）



「図書館」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「年1回～数回程度」は男性30歳代で3割を超えて高く、「過去1年間に利用していない」は男性10・20歳代で7割を超えて高くなっている。(図3-3-14)

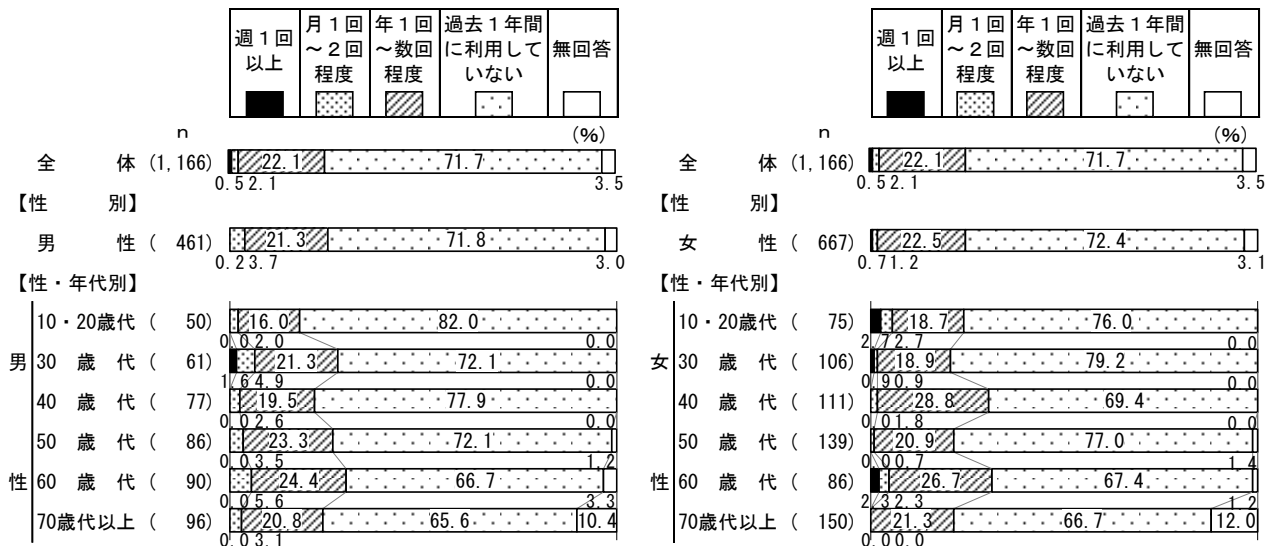
図3-3-14 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（図書館）



「資料館・文化施設」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「過去1年間に利用していない」は男性10・20歳代で8割を超えて高くなっている。(図3-3-15)

図3-3-15 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（資料館・文化施設）

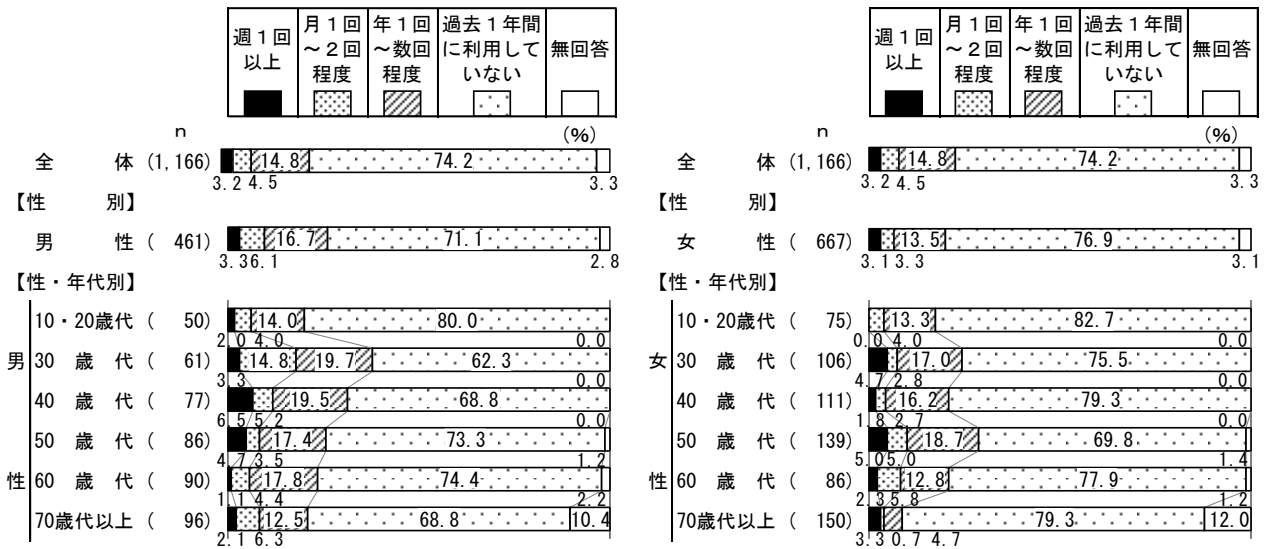


「屋内体育施設」では、性別で見ると、「過去1年間に利用していない」は女性が男性より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「月1回～2回程度」は男性30歳代が最も高く1割台半ばとなっている。

(図3-3-16)

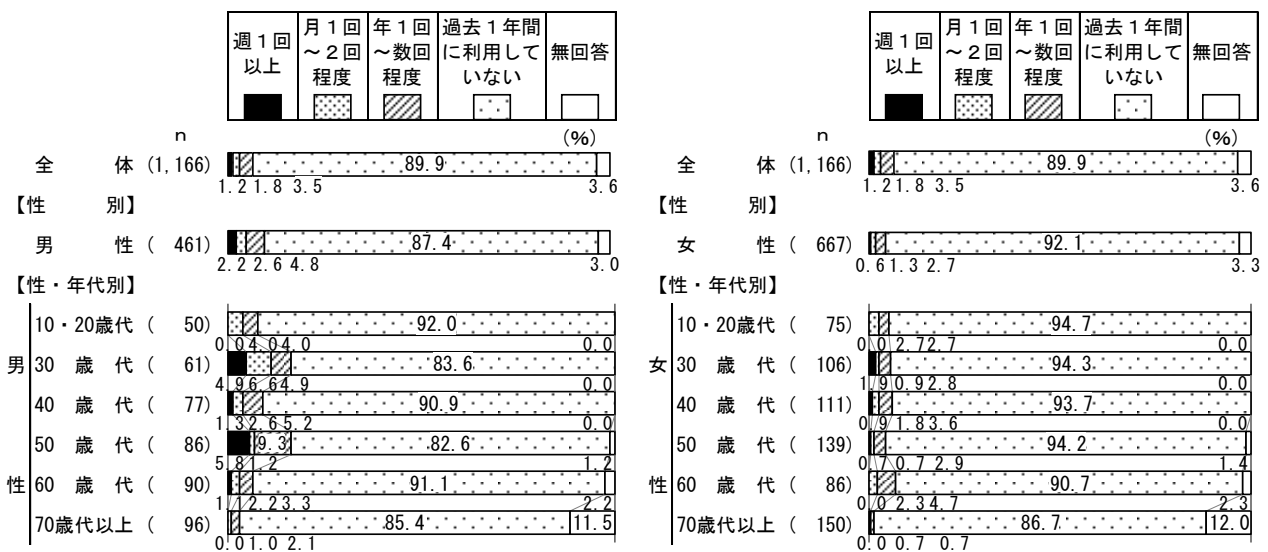
図3-3-16 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（屋内体育施設）



「屋外体育施設」では、性別で見ると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別で見ると、「過去1年間に利用していない」は男性10・20歳代、40歳代、60歳代、女性60歳代以下の年代で9割台となっている。(図3-3-17)

図3-3-17 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（屋外体育施設）

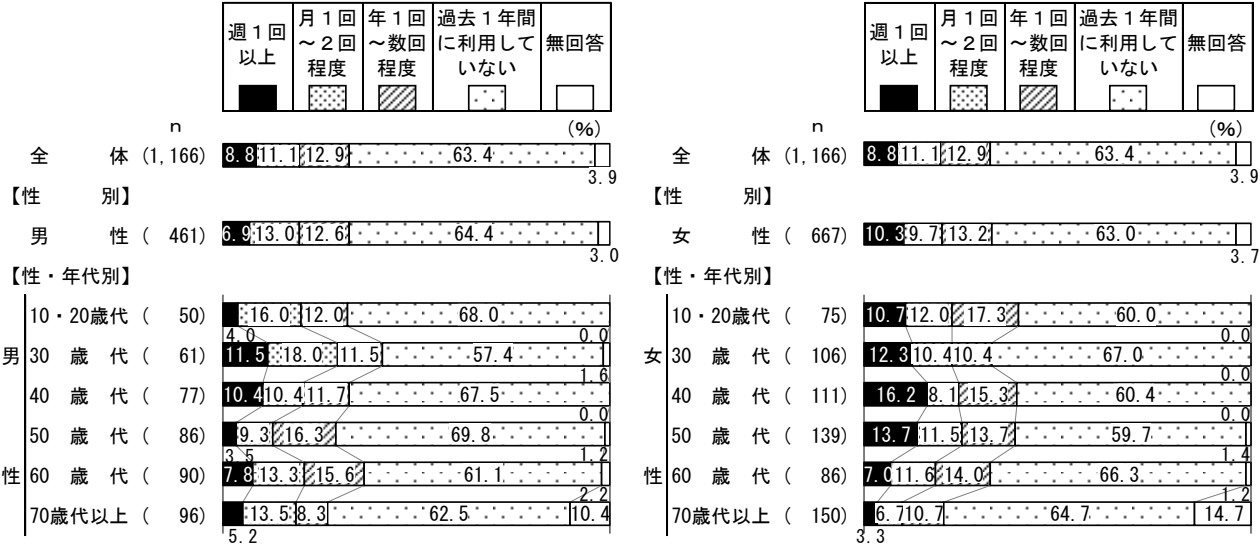


「自転車駐車場」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「週1回以上」は女性40歳代が最も高く1割台半ばとなっている。

(図3-3-18)

図3-3-18 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（自転車駐車場）

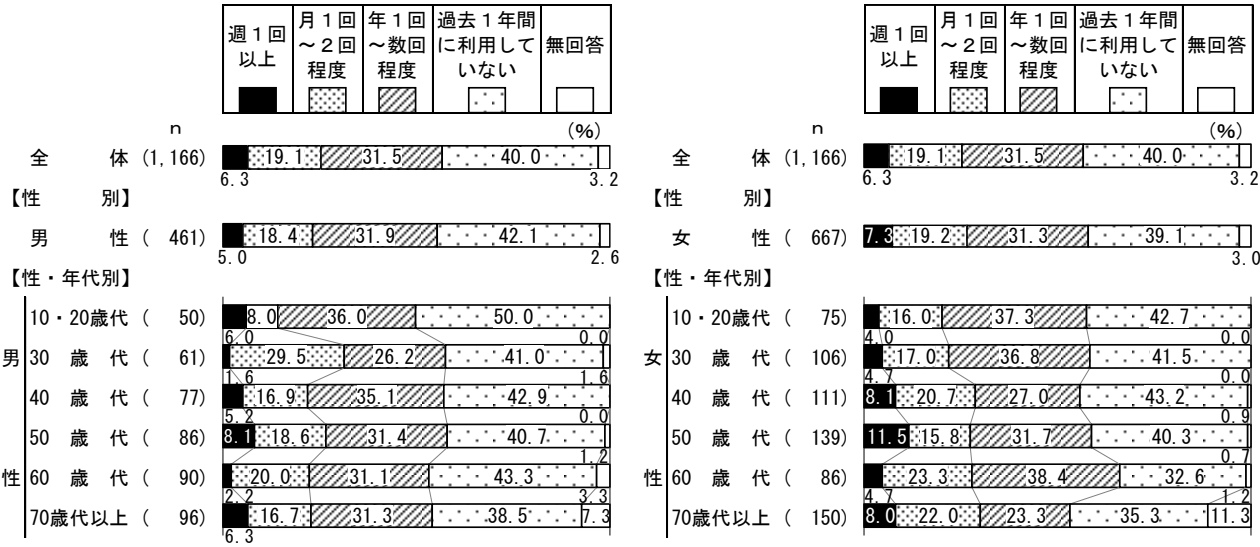


「区内循環バス」では、性別でみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別でみると、「月1回～2回程度」は男性30歳代で約3割と高くなっている。

(図3-3-19)

図3-3-19 性別、性・年代別 区の施設の利用頻度（区内循環バス）



(2) 利用しなかった理由

- 全ての施設で「利用する必要がない」が8割以上

問7 また、過去1年に利用していない場合は、利用しなかった理由について、あてはまるものをすべて選んでください。

図3-3-20

		(%)					
		利用する必要がない	近隣に施設等がない	予約が取りづらい	建物や施設が古い	利用料金が低い	無回答
公園・児童遊園	n=(441)	93.0	4.5	0.2	1.1	0.2	1.8
ホール（リバーサイドホール・曳舟文化センター）	n=(927)	90.4	5.9	1.0	0.3	0.6	2.2
集会所・集会室	n=(953)	95.7	1.8	0.5	0.3	0.3	1.5
コミュニティ会館（東駒形・梅若橋・横川）	n=(1,012)	91.2	7.0	0.4	0.3	0.1	1.7
多目的施設（社会福祉会館・産業会館・地域プラザ・生涯学習センターなど）	n=(964)	91.9	5.3	1.1	0.3	0.4	1.9
事業施設（共生社会推進センター(旧女性センター)・消費者センター）	n=(1,072)	93.6	4.3	0.2	0.1	0.2	2.0
児童館	n=(1,032)	96.7	1.8	0.0	0.4	0.2	1.5
子育て支援施設 （子育てひろば・子育て支援総合センター）	n=(1,067)	96.7	1.5	0.2	0.2	0.2	1.4
高齢者就労支援施設（シルバー人材センター）	n=(1,084)	95.2	2.5	0.1	0.1	0.4	1.8
元気高齢者施設（立花ゆうゆう館・梅若ゆうゆう館・いきいきプラザ）	n=(1,078)	93.9	4.4	0.5	0.2	0.2	1.6
保健センター（向島・本所）	n=(956)	94.0	3.7	0.2	0.3	0.2	1.9
その他の福祉施設 （ボランティアセンター・福祉保健センターなど）	n=(1,070)	93.8	4.1	0.1	0.1	0.2	2.0
図書館	n=(680)	80.1	15.1	0.4	1.6	0.1	2.6
資料館・文化施設（トリフォニーホール・郷土文化資料館・北斎美術館など）	n=(836)	86.2	8.7	1.0	0.2	2.3	2.8
屋内体育施設（スポーツ健康センター・両国屋内プール・総合体育館など）	n=(865)	83.4	10.2	3.1	0.6	2.0	2.5
屋外体育施設（野球場・テニスコートなど）	n=(1,048)	89.3	5.1	2.9	0.0	0.9	2.8
自転車駐車場	n=(739)	90.9	4.2	1.4	0.0	1.4	2.2
区内循環バス	n=(466)	90.8	4.7			1.5	3.4

区の18の施設等に関して、利用しなかった理由を聞いたところ、全ての施設で「利用する必要がない」が8割以上と高くなっている。（図3-3-20）

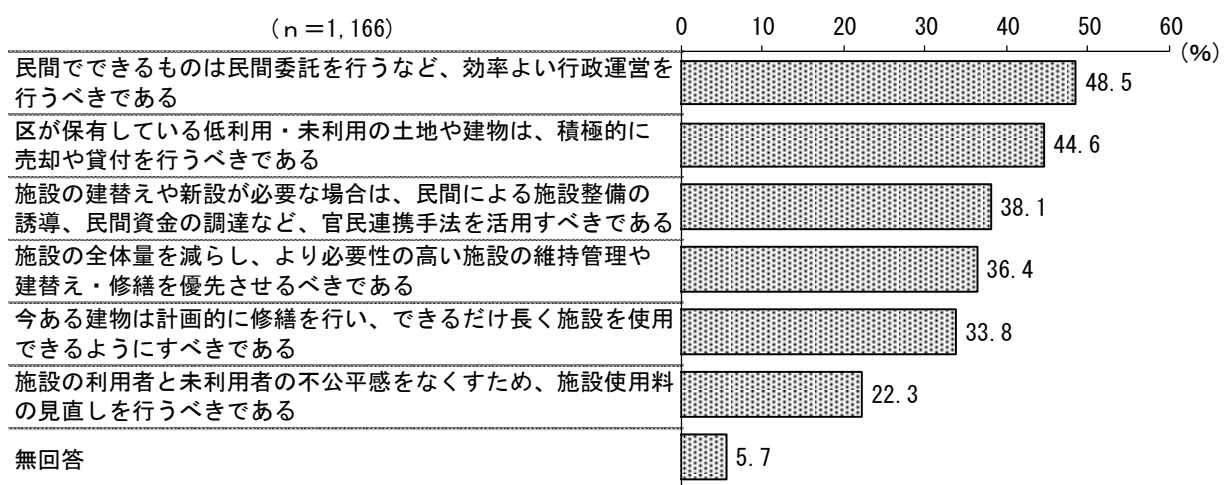
3-4 将来にわたり施設サービスを提供していくための取り組み

- 「民間でできるものは民間委託を行うなど、効率よい行政運営を行うべきである」が5割近く

問8 区の施設は、その約60%が築30年を超えており、老朽化が進んでいます。今後一斉に大規模改修や建替えの時期を迎えますが、それには多額の経費がかかるため、今ある施設をすべて維持し大規模修繕を行っていくのは困難な状況です。

区の限りある財源の中で、将来にわたり必要な施設サービスを提供していくためには、どのような取り組みに力を入れていくべきだと考えますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

図3-4-1

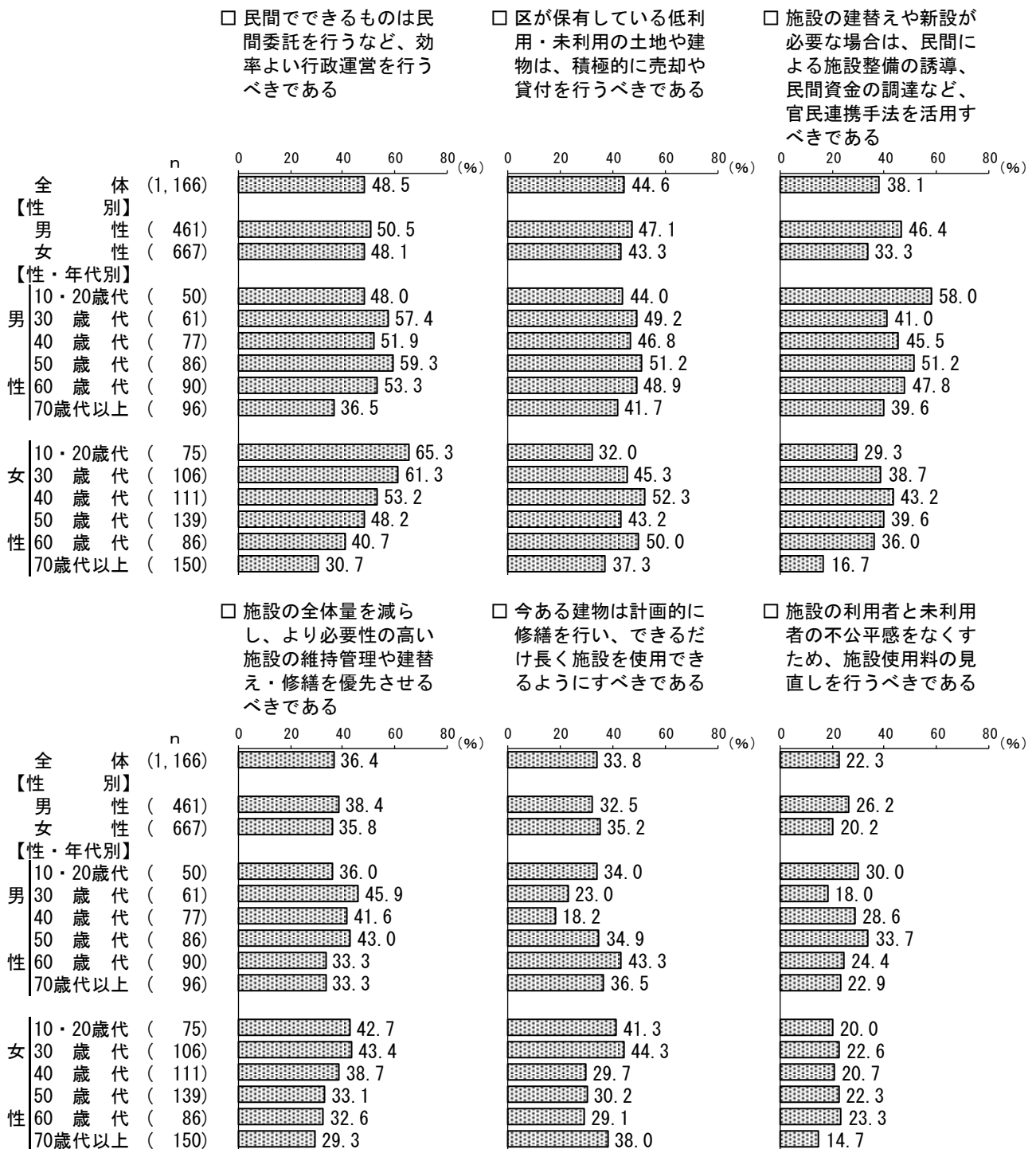


将来にわたり施設サービスを提供していくための取り組みについて聞いたところ、「民間でできるものは民間委託を行うなど、効率よい行政運営を行うべきである」(48.5%)が5割近くと最も高く、「区が保有している低利用・未利用の土地や建物は、積極的に売却や貸付を行うべきである」(44.6%)、「施設の建替えや新設が必要な場合は、民間による施設整備の誘導、民間資金の調達など、官民連携手法を活用すべきである」(38.1%)となっている。(図3-4-1)

性別でみると、「施設の建替えや新設が必要な場合は、民間による施設整備の誘導、民間資金の調達など、官民連携手法を活用すべきである」は男性が女性より13.1ポイント高く、「施設の利用者と未利用者の不公平感をなくすため、施設使用料の見直しを行うべきである」は男性が女性より6.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「民間でできるものは民間委託を行うなど、効率よい行政運営を行うべきである」は女性10・20歳代で6割台半ばと高くなっている。「施設の建替えや新設が必要な場合は、民間による施設設備の誘導、民間資金の調達など、官民連携手法を活用すべきである」は男性10・20歳代、50歳代で5割台と高くなっている。(図3-4-2)

図3-4-2 性別、性・年代別 将来にわたり施設サービスを提供していくための取り組み



居住年数別でみると、「民間でできるものは民間委託を行うなど、効率よい行政運営を行うべきである」は短期居住者で6割近くとなっている。(図3-4-3)

図3-4-3 居住年数別 将来にわたり施設サービスを提供していくための取り組み

